

三井物産会社「日記」(第三号・第四号)

— 明治一〇年六月〜同一一年二月 —

前号の三井物産会社「日記」第二号は明治一〇年一月一日から六月一八日までとなっていたが、続く第三号も六月一八日から始まり、同年一〇月二九日まで記されている。第二号の最後と第三号の最初の書き手は両方とも木村正幹である。同様に第四号の書き始めも一〇月二九日からであり、第三号の書き終わり日と重なっている。第三号の最終の書き手は益田孝、第四号は木村正幹が書き始めている。三、四号とも記載の多くは益田孝と木村正幹の筆である。第二号が一四七丁もあつたのに対し、第三号は九八丁、第四号は九九丁であるところから、決まった年月日や紙数で綴じている訳ではないことがわかる。また第三号は三井文庫による補修製本が施されているが、第四号は補修されていない。同じく無補修であった第二号が四つ目綴じ仕様の製本であるのに、第四号は簡略に二箇所を結び綴じにしてある、といった具合に、日記の

仕様は必ずしも画一的ではない。それはともかくとして、文字の難解さとは別に欄外に朱書、鉛筆書に加え、兜町、蛸殻町の米相場の数字にたいし、種々のマークが付けられているが、煩雑になるため、目立つもののみ表記した。数字も必ずしも合わないところもあり、また解読しきれない箇所も多々あるので、疑問のある場合は、原本で確認していただければ幸いである。

主な筆記者の木村・益田は極めて多忙であつたと思われるが、基本的には休業日を除き全ての日について記事がある。例外的に、第四号の明治一一年一月二九日〜三一日の記載がない(三〇日は孝明天皇御祭日ということで休業日である)。一月二八日より二月二日の途中まで、益田孝の筆で一氣に書かれており、まとめ書きされている。

さて、明治一〇年の後半及び一一年の初頭にあたる物産

「日記」第三号、第四号には、米相場はもとより、事業の拡大にともなう従業員の配置や動き、各地の景況、物品の流通、輸送手段たる外国船も多数出てくる。物産と種々関わる人物の中に末松謙澄とみられる工部省官員(四号)や、三井銀行大阪支店詰時代の兼松房次郎の名(三号)も見受けられる。

また清国の借款問題とフランス巴里大博覧会出品取扱を契機とする上海および巴里への支店開設の過程、ついで香港、ロンドンへの支店開設のための準備がみられて興味深い。益田孝はこの間、新年を迎える除夜の鐘を聞きながら大晦日の日記を付け、翌一年の元日には業務を行うという、超多忙な状態にあった。益田は一〇月に巴里博覧会事務取扱者として仏国に向かう坪内安久を見送り、一月には上海へ向け上田安三郎、笹瀬元明を送り出し、明治十一年正月早々香港に執行弘道を送り出す。そして二週間後の一月五日にはロンドンと巴里へ向かう社主三井養之助と伊達忠七を見送っている。何のためか、明治一〇年中まで益田が横浜に行つたさいの記事には、△や○のマークが日記の欄外に付けられている(例外もある)。

上海及び巴里に支店を開設するにあたっては、明治一〇年二月三〇日付けをもって三井物産会社総括益田孝より三井組大元方に宛てに出された照会状がある。¹⁾

「以書面得貴意候、陳者当社儀博覧会事務局ヨリ明年仏

国大博覧会御用取扱ヲ被命、此度大蔵省ヨリ海外荷為替御用取扱モ被仰付候ニ付テハ、仏国ノ都府巴里ノ儀ハ枢要ノ地ニ付、支店設置ヲ要シ、其事情ハ已ニ数回口頭ニテ得御意置候次第ニ付、先頃派出致候人員ヲ以テ相当ノ家屋借受ケ、明年一月ヨリ開店為致度見込ニ御座候

一、支那上海ノ儀ハ当社開業以來三池石炭其外売捌方ハ外国人ニ托シ為取扱来リ候処、追々事業拡張シ、何分外人ニ而已托シ置キ難ク故ニ、当六月中ヨリ社員ヲ派出シテ実況ヲ探偵為致候処、凡四ヶ月間ノ滞在ニテ畧同地之事情ニモ相通シ、實際營業為致候テモ差支無之見込相立候ニ付、爾来同地ニ当社支店ヲ開設シ、諸般ノ商務外国人ニ委托スルコトヲ止メ社員ニテ取扱度ト存候、尤モ当春支那政府貸付金ノ儀ニ付大蔵省ノ内命ヲ奉シ、第一国立銀行ヨリ渋沢栄一、当社ヨリ拙生(益田孝)出張御用取扱候ヨリ、支那地方ニ於テ旧銅貨及ヒ銀貨交換之儀双方ハ被仰付候ニ付、右取扱ノ儀ハ当分ノ内第一国立銀行ヨリモ当社へ委托セラレ、旁以テ支店開設ヲ要スルニ至リ候、右者旧国産方貸付金取立ヲ当社ニ於テ相任候間ハ、新ニ支店開設ノ儀者御商議可申上之御約束ニ対シ、

此段御照会及候、早急御回答奉願候也

十年十二月卅日

三井物産会社

総括 益田 孝

三井組

大元方御中

これに対し、大元方はその日の内に「右廉々御考案ノ通可然奉存候間、宜御注意在之度候、如斯何分追々繁盛手広ノ御取扱ニ成行、於当方モ致大慶候、尚此上トモ百事御尽力ノ程仰ク所ニ御座候」と回答している。どういう理由で上海、およびバリ支店を開設するかに到ったかが書かれているわけで、事後報告とはいえ大元方は直ちに回答書を渡した。その回答に対し物産側も受取書を出すなど、たてまえ上右の史料に見えるように、「旧国産方貸付金取立ヲ当社ニ於テ相任候間ハ」、支店開設には大元方の承諾を必要としたように思われる。なお国内支店ばかりかその後の香港支店、ロンドン支店開設のさいの照会に関する記載は、物産の日記にも大元方側の日記や書類にも見当たらない。

物産会社は仏国博覧会出品取扱業務のため、六月二日銀座にそのための店を設置して準備にあたったが、七月一日に室町三丁目角(元越後屋江戸本店跡)⁽²⁾の三井組の持家を借りて移転した。この日記の中に「室町支店」または「駿河町店」と書かれているのがそれである。博覧会出品物が保管されているため、博覧会事務総裁の松方正義、事務官前田正名をはじめ、大隈重信や伊藤博文も視察に訪れている。明治十一年「室町支店損益勘定」⁽³⁾には坪内安久、伊達忠七、益田

栄作らの仏国行きの船賃や、賄道具および食用品の仏国への送貨、送荷の為の蔵敷料、仏国より送られて来た物品の輸入税や月給、その他博覧会に関わる諸費が損金として計上され、また益金としては仏国送り物品の口銭、出品手数料その他があり、差引二七六円一五銭五厘の損金と出している。室町支店はバリ博覧会開催年の翌年明治十二年末をもって閉鎖されている。

余談ながら、三井物産創業時に三井家から切り離された二人の社主、三井養之助と武之助であるが、九月一三日の静寛院宮の葬儀のさいは養之助が三井家名代として増上寺に参列している。また外国荷為替御用取扱者をロンドンへ派遣することにさいし、物産会社が養之助をその任に当てることについても大元方の三野村利助に相談を持ちかけている。

なお創業期の物産会社の海外支店開設については『三井事業史』本篇第二巻、木山実『近代日本と三井物産―総合商社の起源―』(二〇〇九年三月 ミネルヴァ書房)第三章を参照されたい。

前号三井物産会社「日記」第二号の四月廿二日に京都府知事植村が植村となっている。また付表および付録史料中に益田耕三としたのは、益田科三の誤りである。訂正されたい。他にも注(12)の引用史料などを読み直して改めたものもある。

る。

本号三井物産会社「日記」第三号の原稿作成は酒井照子氏、小苺米丕美氏、また同第四号は林登志太氏(故人)が作成し、校合には酒井照子氏、小苺米丕美氏に多大なるご協力をいただいた。記して謝意を表明いたします。(樋口知子)

(1) 「三井物産会社より支那并仏国江出店之儀照會書入」
(三井文庫所蔵史料 追一六七九―三)

(2) 駿河町北側にあった呉服店は、両替店続きに御用所を新築する計画にともない、地所の一部明け渡しを求められたために、手狭になるとして明治五年春南側に移ることとなり、同七年二月普請落成、五月一日日に開店した。「維新以来の駿河町地所家屋の沿革」(三井文庫所蔵史料 特一六八一―)、「大井小助等上書」(東京三越呉服店糸店新築合併維持一件歎願)(三井文庫所蔵史料 本六三七―一九)、および「言送帳三十番」(三井文庫所蔵史料 別一七八―)。明治一〇年の大元方「日記」(三井文庫所蔵史料 本七三八)の七月八日に「明九日より大元方、旧両替店見世蔵二階江引移り候様、三郎助殿より御沙汰有之」、翌七月九日に「旧国産方二階内国博覧会出品之置場ニ相成」

と記されている。室町支店閉鎖後も大きな荷物のあるとき一時的に借りることもあった。この場所は、その後資生堂が使っていたことがある(明治初時ヨリ三井家営業所及関係ノ事業所跡形ノ一覽)三井文庫所蔵史料 特一六八一―、明治一四年「駿河町三井銀行並資生堂薬舗」三井文庫所蔵写真)。

(3) 三井文庫所蔵史料 物産五三〇―一五。

凡例

一、翻刻にあたり、原本の墨筆とコピーインクの筆書の区別はしていないが、朱筆は太字で、鉛筆は書体を替えて区別できるようにした。鉛筆の数字はイタリック体とした。また朱合点や朱の跨線は太くした。

一、読みやすくするため、適宜に読点「、」を加えた。一部に並列点「・」も加えた箇所がある。

一、原則として通用の字体を用いた。

一、変体仮名は助詞の者、江、而は漢字のままとし、字体を小さくした。子をネと読む場合も字をすこし小さくして漢字のままとした。

一、平仮名、片仮名の組み合わせによる合字はそれぞれ平仮名、片仮名に直した。

一、単純な誤記は直した。

一、抹消箇所は、墨で消された文字には左傍に、を、朱で消された文字には、を左傍に付けた。書き直された文字は、原則として右傍に記したが、場合によっては注記とした箇所もある。

一、欄外書や余白書込み、後筆挿入の区別をいちいち付けることは難しく、また煩雑になるため、欄外書のみ左のように表記した。ただし明らかに新しい記載（おそらく「三井物産沿革史」編纂時代と思われる）は省略してあ

る。

欄外書のうち、見出しと考える場合は、当該箇所の一ツ書の脇に*をつけ「」に括った。内容の補足と見られるものには、当該箇所の最後に段を落として*を付け、「」に括った。なお本文中にも（）や「」が使われているが、*印で区別されたい。

一、行間の（ ）は紹介者による注である。また本文中に注を入れる場合は、「」内に「注」と入れた。

一、判読不能の文字は□、文字数の判らない場合は□とした。

一、余白は後に書き込むため空けてあったと思われるが、ここでは原則として余白の明示はせず、日付ごとに一行空きで追込みとした。

一、◎とあるのは合印を示す。

〔表紙〕
〔從明治十年六月十八日到〕 ③

同 年十月廿九日

日記

第參号 元方 一 (三井文庫所藏史料 物産二)

六月十八日 小雨晴

*〔△〕 益田横濱行

*〔旅〕 一サイノシユール号見分旁トシテ益田十時四十五分氣車ヲ以

横濱行

*〔限月〕

一兜町八月限売百五拾枚

十 5.770 九十 5.750 十五 5.730

十 5.760 廿五 5.740

*〔石巻〕

一仙台出張三井銀行ヨリ福永江五千円貸渡ニ付、本行江返戻

可致段前山電報ス 即刻本行へ申越ス

六月十九日 晴

一奥国人江米引合として永田町公使館へ益田罷越候事

一東京其外諸県買米代金残り式千百円余出納局より御下渡相

成候事

一浅草御蔵羽州戌年米入札ニ付、左之通入札

五十八番

羽州米 壹石ニ付高口切 五円拾七錢九り

貳千六百九十六俵 五百俵 五円貳拾五錢

三百俵 五円三拾壹錢

五十六番

同米 壹石ニ付高口切 四円九拾貳錢八り

貳千貳拾壹俵 五百俵 五円

三百俵 五円五錢

右之通申談候事

一岩橋万造所持伊勢丸米貳千八百石陸前石巻折浜積を以、百

石ニ付六拾八円約定取結候事

一島方取扱乾魚・塩魚之義ニ付此度府稅布令ニ付、心得方伺

書岡本藤右衛門府庁江差上置事

一内国博覽出品願等佐々木金兵衛へ差廻置候事

一陸軍約定第壹回入着差引勘定残金受取

六月廿日 晴

一村尾甚四郎江対シ訴訟代理人加藤より警視へ差出、受納相

成候事

一内博事務局より呼出ニ付鈴木董罷出候処、用達御申附之書

面下渡相成候事

一木挽町ニ而工商会社製作場為一見、益田、木村午後罷越候

事 曲木氏誘引

六月廿一日 晴風

- 一 陸軍約定絨第五回入着、甲六号、五号五箱、三号六箱四箱
- 一 共昨夜気車ニ而着、今日入込可申答
- 一 崎玉県上戸田村日坂平蔵紺屋、金子源右衛門外兩人ニ付訴出、
- 一 同県勸解才判所より廿二日呼出ニ付、同才判と本才判と江
- 一 本社より菊永差出之義届書入用之由ニ付、杉山江相渡ス
- 一 大坂銀行支店兼松房次郎今日より陸路帰坂ニ付、米上納方
- 一 意味違之義委細拜司江伝言相頼ム
- 一 英国江輸送米サイノシユル号江可積入米ワツトソンより買
- 一 請度ニ付見本差廻方依頼候間、今日濃州米見本中原国之助
- 一 二渡ス
- 一 東京在米調書郷大書記官殿へ渡ス
- 一 横須賀造船局より日本古銅釣鐘ノ如キもの入用之由ニ付、
- 一 直聞候処品切れ、尤相場老買目
- 一 午前郷大書記官より益田呼出し、下関ニおゐて北国米貳万
- 一 石入用ニ付至急買入之義注文有之、即刻夫々手配ニ取掛申
- 一 候事
- 一 岩橋卜帆前船借入条約写石巻福永へ送ル
- 一 大隈殿御舎弟御死去之由
- 一 一炮兵本廠納三池石炭五十噸徳岡取計候事

六月廿二日 晴

*「三池石炭」[230]

- 一 横浜貳拾三番館持霜降絨百反約定之分、外二同館持六拾五
- 一 反共井市中有品見込凡五千ヤール程、壹ヤールニ付壹円四
- 一 拾九錢ニ而陸軍省へ売約定相決候間、新井即刻金五千円為
- 一 持横浜へ差越候事

*「貳十三番持霜降壹ヤール」[230]約定

- 一 高島石炭塊東京瓦斯会社へ売込方申入置分直段壹噸ニ付 97.3 元弗 8200 二百噸丈ケ之分渋沢へ申越候事

*「高島石炭」[231]

- 一 *「古銅」
一 古銅貳拾万斤注文之釣鐘・半鐘(百斤ニ付十六巴)、並銅品
- 一 込(同十五巴)五十五錢ヨリ六十錢、荒銅並(同拾八巴五十錢)一
- 一 ケ月老万四、五千斤出荷有之、鑄型(同貳拾巴)壹万斤位
- 一 浅又より申来事

六月廿三日 晴

蛎殻町

- 一 一八月限拾枚 五 六円十錢 貳 八錢
- 一 一八月限拾枚 三 九錢 貳 八錢
- 一 同 一八月限拾枚 貳 六円十五錢 四 十三錢
- 一 同 一八月限拾枚 四 十四錢 四 十三錢

一 高島石炭七百五十噸船縁渡ヲ以英壹番より七弗ニ而買付候事

*[此分式十五錢上ケ陸受取ニ約定受ル]

一 サイノシユルニ積込有之英壹石炭三百噸品海ニ而東京上ケ之義願出、許可ニ付即刻金山事横浜へ書面持參為致事

一 田中藤助大坂輸出并上納米事件ニ而出張相命候事

一 麻米袋八拾箇、此数式万四千枚大坂送トシテ大藏省より受取、明後廿五日出帆（アキモ）を以大坂江差送筈ニ付、今日鉄道江出ス

一 深川ニ而社米入札不人氣ニ而引□候事

一 大隈殿舎弟葬式益田并社主武之助殿罷越候事

一 広島丸入着ニ付長崎より来状有、其内鹿児島官員より三拾円留守ニ送金有之、為持差遣受取計候事

六月廿四日 休

一 第五回雇輸出米積取グレイミス号品川入着、彼方より依頼スル処之竹千本為持差越候事

六月廿五日

一 グレイミス号江可積入米積出候処、風浪故ニ積入不相成事
一 十四番雇大有丸今日出帆神戸行ニ付、田中藤助大坂出張為致候、右は輸出来は勿論、上納米手順有之旁取計候事三

十円渡

六月廿六日

一 第五回絨代洋買入旁として金式万円横浜支店へ内券為持候事使政次郎十時四十五分出

一 洋千九拾弗銀行預り券も同断之内トシテ為持候事 同人

一 陸軍省第貳課より呼出ニ付木村罷出候処、伊東軍吏より左之通凡直積可申出事

第三絨 第四絨 第五絨当七号

緋絨 黄絨 毛布八斤物赤貳部入

一 渋沢・益田へ府知事談度事有之由申来候付、第三時罷越候事

一 五月限渡米今日ニ而相済

一 陸軍約定第貳回、三回入着、勘定尻残金今日下渡相成候事

六月廿七日

一 広島丸出帆ニ付長崎、馬関江出状ス

一 田中藤助も此舟ニ而出坂候事

一 金式万円馬関秋本江買米代之内トシテ内券為換を以差送候事

一 鉦山局より千早丸約条此度限聞届之段達有之事、尤同船は昨日午前十時横浜出帆セリ

一金五万円馬関買入米式万石代之内トシテ下渡願出納局へ差出候事

一 大坂古米凡五千石佐々木八郎扱米之分、五円式拾五錢換ニ而樽計リニ而買請約定本日横浜ニ而取結、請取済電報之上横濱ニ而代金可私筈

一 サイノシユル号今日品川入港之由、石炭三百噸陸揚済報知之上米積込可申手配ス

一 古谷・宮本、グレーミス号江米積入取調旁トシテ罷越事

*「△益田出浜」

一 松方西京行其外旁トシテ益田出浜

六月廿八日

一 当四月大倉組へ約定毛布赤式千枚萌黄八千枚、高平均三弗三分ト申出候事

一 陸軍第貳課ヨリ呼出、木村罷出候処左之通

一 三号紺絨 四千式百丈 壹万四千ヤール

一 四号同 千百丈 三千六百六拾七ヤール

一 五号同我七号 三万丈 拾万ヤール

一 緋絨三号 五拾丈 百六拾七ヤール

一 黄絨 五百丈 千六百七拾ヤール

一 毛布八斤已上 五万枚 但赤八千枚

萌黄四万式千枚

右伝票ヲ以下渡約定決ス、毛布は七ヶ月間則一月廿八日限、絨類ハヶ月限二月廿八日限ニ引請候事

一 仏国博覧会之義ニ付、午後山方信離方江益田、木村同行、談話ニ及フ

六月廿九日 曇

一 グレーミス、サイノシユル両艦風入検査旁ヒツセル、益田、宮本、金山、品川沖へ罷越候事

一 レウ一件石炭代洋四千三百七拾七弗七十セント外債掛より受取候事 古谷

一 石巻出張福永へ千早丸約定写差送ル

一 大坂住友極上丁銅何程ニ而も百斤ニ付式拾四円三拾錢ニ而三十日間ナレハ約定可取結段、横須賀造船局ニ可申出義坪内ニ申越ス、此分今朝郷氏江益田より談示済

百斤 大坂銀 23,200 位

運賃 1150

23,350

一 村尾甚四郎掛り合公債証書之義、訴願中増田勇介ト村尾ト馴合、最前当社員中彼カ名前を以証書取遣致置候事ヲ以、増田より村尾へ勘弁書昨廿八日差遣候由ニ而、全く増田も悪事ニ組合居候哉と被察候間、先訴ヲ一旦願下ケ、更ニ増田ト村尾ヲ相手取訴出候手順之外無之ニ付、明日代人加藤

より願下ヲ出候筈ニ今泉ト議ス

一 夕方木戸公法会ニ付、益田、木村も罷越ス

六月卅日 晴

一大蔵省より御申付之馬関買米貳万石ヲ先買止、代り大坂ニ
而同石迄買上之義ヲ郷氏より益田へ本省ニ而申付相成、即
刻秋本ニ買止電信セリ

一 上州辺出売買入并生糸荷為換取組として深川^(母)太七、磯清五
郎明朝より出張ニ付、金五千円為持、古谷ヲ惣締として出
張申付事

一 ワイキン号輸出来売却代金之内トシテ十四番ヨリ請之松

岡持参

*「東京より横須賀運賃」

一 東京ヨリ横須賀迄運賃鉄物類

百斤ニ付三錢五厘 大村伝次郎

一 今夜前田宅ニ而益田、木村、伊達仏博會議

七月一日 休 晴

一 午後駿河町店見分として益田、前田、其外^(カ)同行、転移ニ相
決ス

七月二日 晴

一 洋銀貳万五千貳百三拾五弗拾セント、右は第貳回輸出英汽
船ワイキン号積三陸米厦門ニ而売却代之内トシテ、ヨリヤ
ンタリバンク為換を以上海ヨリ送り来ル分出納局上納ス
養之助殿持参

一 奥国人米引合として来店

一 大坂三井銀行ヨリ貳千五百円ト貳千四百円ト内券貳通を以
送候金甲乙帳へ入記

一 先月三十日三井組大元方より頼状来ル、右は旧国産方(三
越店)貸金取立方当社へ依頼ニ付而ハ、田中彦七、杉山佐
七、新井庄兵衛、深井太七、磯清五郎五名引渡可申との義
ニ付、今日請書差出置候事

一 輸出来袋詰今日迄貳万六千四百袋也、此内老万四千百貳拾
貳俵解下積出之事

三日

南新堀老丁目四番地中沢彦吉

永野桂次郎氏より之依頼

一 大蔵省へ龍動廿九日出の米一条電信ヲ持参、郷大書記官殿
江渡ス、且ツ大坂ニ而貳万石御注文ノ買米は着手せしを述
フ、価ハ上米五円六十錢、加賀其外北国米五円貳十五錢位
之趣申述へ置ク、○オースタリヤ人江売米之事ハ拾三志位
ニ買フナレハ売ル、左も無レハ此方之手ニ而積送ルベシト

答へ可然との事なり

一 フィセル来り告ケ而云ク、東洋銀行ロセルは本邦より電信アリタルニ寄り、陸軍絨買入荷為替等は内乱等之為メ是迄通りニ而は取組難ク、陸軍省より東洋銀行へ対し保証の書付を得度趣申出たりと

一 野村神奈川県令より之依頼、藤木良三長崎支店ニ而使用スルコトを約し、同人明日より出帆

一 今日よりマチエルと云フ外国人ヲ雇而風帆船輸出之監督ヲナサシム

一 午後洪沢来社

一 遠藤船より帰り来ル、明日より又々袋詰ニ懸ル積リ

七月四日 晴

一 今朝仏国開店願書内務・大蔵両卿宛差出ス、但大蔵省本局へ直チニ差出ス

一 名護丸便ニ而長崎、下ノ関郵便出ス

一 長崎江絨見本等送ル

一 陸軍省絨注文抵当

一 今朝吉沢吉五郎金五千円持参八王子出張、生糸為換取組方為致候事

一 租税局八丈貢納島売却御申付品取下候事

*「五歩口銭入札也」

七月五日

一 小麦百十五石計輸出申立候事

一 陸軍約定絨受書抵当秩禄公債証書壹万七千三百円、新公債証書三万五千式百五十円相納置候事

一 三井銀行所持之秩禄公債証書高四万式千百円之辻九拾円八拾銭替トシテ当方へ買入之義約定ス

一 昨夜拝司ヨリ電信ニ付、今朝陸軍渡米式万石之義相伺候処、取調可申との義ニ付一応引取、午後出納局より呼出ニ而、

大坂、兵庫ニ而式万石買付之分は北国米ヲ除キ中・西国、五畿内中品米迄買入可申、尤是迄既ニ両地ニ而買入候北国

米ハ其儘在庫致置キ、あと式万石相揃へ可申、左候而少々宛ニ而も買付次第時々大坂出納局へ届出差図ヲ請、万一陸

軍へ渡方致候節は出納局、陸軍出会にて枿目ヲ定メ候様可取計との事、飯田より授ケ候事

一 馬関七千石北国米ニ而陸軍渡ハ差止メ、筑前米ニ而七千石可相渡段同人達事

一 長崎三千石は間違ニ而、右は出納出張ニ所持之米ヲ相渡候間、万一引足不申節は預ケ米ヲ以渡方可致ニ付可申通置との事ニ而、即時申越候事

*「△ 益田横濱行」

一 益田横濱行

一大坂表出張銀行ト拜司ト貸借利勘定入組、不当之義も有之
旁三野村ニ相談候処、更ニ相改何と歎省略之取計方御相談
可仕ニ付、一先書類預リ置との事 木村引合

一七月二日高崎ヨリ古谷・磯報知

○出穀島村辺上^上壱斗式升^中目凡式百四十目

等^中壱斗三升^下目凡式百五十目 等^下壱斗四升^中目凡式百

六十目

平均式百五拾目

○生糸^前廿九日^中市^中平均^中兩^中二三五匁五分

伊勢^一日^市兩^二三五匁、^本庄^二日^市兩^二三五匁^三

分見込

安^中二日^市平均^中三十四匁見込、出品昨年ニ比スレハ三分ノ

一也

七月六日 雨

一第六回陸軍約定絨第式号

右昨日鉄道ヨリ着

一勝部元右衛門より残金七千円之内五百円入金、利足勘定差

引残金

来ル九月三十日限延期返済約定決ス

七月七日 雨

一金七万円下関、大坂、兵庫買入米貳万八千石代之内トシテ
出納局より下ル宮本取上事

一秩禄公債証書四^千式^千百^円之^辻三井銀行ヨリ九拾円八十銭

ニ而買付、代金三万八千貳百貳拾六円八拾銭之辻銀行江相

渡、書換未ニ付右証書預リ券并代金受取書取ル、就而は一

昨日陸軍抵当トシテ同行ヨリ借請候新公債証書三万五千貳

百五十円、秩禄同壱万七千三百円は抵当ニ預リ候積を以利

足不払約束を以受取置候事 依而仮証書差出候事

一金三万七千七百七拾三元廿銭は甲乙帳借越江納入トシテ、七

万円受取之内証書代^全払^カ銀^行へ入金致置候事

一大坂買米貳万石之内出来丈ケ宛早々出納へ届出、差図ヲ請

候様電信ニテ可申越との達し飯田より承ル

一馬関ニ而七千石陸軍渡し之分渡し始ル、当日筑前米直段を

以売渡へキ陸軍ト約定ニ付、其段陸軍へ掛合、且当日相場

申越候様電信スヘシト同断

一小麦輸出ニ付、税関ヨリ本船乗込官吏江達し書細田時義横

浜支店より送り米分遠藤へ渡ス

一横須賀造船局より注文左ノ通 坪内より申来ル

丁銅大小取交セ 壱万キロ(十トン)

唐銅^和上品^除キ 壱万五千キロ(十五トン)

右八月中旬納候事

七月八日 休

七月九日 晴 大風

*△ 益田横濱行

一 ワットソン江用事有之、益田横濱行

一大坂、兵庫買米式万石来ル廿日迄ニ買入相成候哉聞合可申段、出納局より達し

一 昨日東京丸着、長崎、熊本等より来状、金子明細報知来ル

一 室町三丁目巷、式番地三井組持家ヲ当社へ借請之義談判相濟、明日午後より移転致候事ニ銀座ト申合候事

一 西洋貫之台式丁浅草御蔵より拜借、品川両艦江為持候事長谷藤吉

一 ヒットマン帰東来店候事

七月十日 大風

一 明十一日朝馬車を以金壹万円深沢藤三郎へ為持、古谷出先迄差送候事

一 田辺屋白黒霜降絨代之内七千円相渡ス

一 輸出小麦袋詰相済を積出候事

一 雲州勝部元右衛門差引残貸七千円余来ル九月中(三十日限)

返納、尤可相成致度候も可相納事ニ相成、添証書昨日為差入候事

一 石巻買米之内石浜ニ有之分四百八拾俵第五弥生丸江積込、六月廿九日出帆之義、福永より申来ル

一 銀座より室町三丁目店江出張店引移候事

一 第式回厦門輸出米代洋之内式万四千七百五拾弗為換を以送り来候分、十四番より可請取筈之内、四千式百八拾四弗十四番江フルルカスル運賃□可払分、差引残り式万〇四百六拾六弗支店より送り来受取置、右差引洋買得之上相加上納可致候

七月十一日 雨 大風

一金壹万円深沢藤三郎へ為持今年前第四時より馬車ニ而高崎古谷迄送り候事

一 七月限式百枚程九月限へ乗換ノ決義米又ニ申付候 兜町

本付 七月限三拾枚買理 十五 五円五十九錢

前 九月限三拾枚売附 十五 六円〇七錢 五五 三錢

七月限式拾枚買理 十五 四錢 五五 三錢

九月限式拾枚売附 十五 五十九錢

五 六 〇〇六錢

十五 〇〇五錢

*「アルウィン江絨之事ニ付電信ス、井上氏へ月給の事ニ付出状ス」

一 鉦山局より三池同局送り鉄棒類長崎入着之処、横浜税関免状無之付廻漕差聞候由、本局より早々通知方申立候様羽太

より来報ニ付上申ス

一馬関ニ於而陸軍七千石渡し米昨日始入り五百石渡ス、当日筑前米直段五円貳十五錢計枿立間欠四升壹石此代貳十壹錢相加へ、五円四十錢ニ当ル段出納局へ届ル

本
七月限百四拾六枚買埋 貳十五 五十五十七錢 壹一六十錢
百十五 五十八錢
五十九錢

貳番
七同 四枚 買埋 貳 六十錢
六十錢

九月限百六拾枚売附 貳十七 六一〇八錢 五十一〇〇六錢
〇七錢 六十一〇〇五錢
差引拾枚売過ニ付、買埋十枚申付置候事

*「馬関計升立間欠四升也」

七月十二日 雨

一仏国出店ニ付博覧会御用相勳度願書、意味書直し今日大蔵省へ養之助殿持参

一井田一平来店事

一伊達忠七、近藤英次、^(梅)枝田幸広雇入指令ス、松本常磐月給支給同断

一ヒットマン来店事

一埃国人来店、絨見本小切相渡直段取調、且見本十反宛注文相頼ム

一夕刻ワイセル来店し而云ク、香港より之挨拶バンク不承知、

尤アルウインより九千磅ヲ預ケ而為替ヲ借用スルコトヲハ
ンクへ申込ミタリと而其写ヲ送ル

七月十三日

一大坂買入貳万石ノ内

第四十号 来状、壹万貳千八百俵ト貳百石買入案内アリ
第四十一号

一大坂拜司・藤田・坂本平介江出状ス

一下ノ関より之電信ニ寄レハ此度陸軍省より引受ケタル白米
貳千五百石、俵は先前買入之内より筑前米千九百俵借用セ
しニ付、直チニ買入代米備へ置クトノ事ニ付、夫ニは不及
趣申答置ク

一函館製造石灰見本開拓使ヨリ下渡相成、当地直談可申出様
頼談有之事林

一第六回約定絨代洋内渡トシテ三万四千円陸軍より林万兵衛
取下ケ、直ニ銀行当座へ預ケ入事

一昨日勢州桑名残米、美濃貳千俵壹斗八升売却出来ルナラ売
り、銀行留守代理福田へ電信ス

七月十四日

一石巻福永ヨリ電報三百石引取ル由、い細郵便出スト申越タ
リ

*[益田浜行]

一益田為換事件香港上海銀行其外ニ用事有之、横濱行
一明治九年分賦金規則ニ照準シ、半額預リ証書を以夫々今日
相渡候事

一旧国産方九年半季分□計算半途ニ而差障之趣ニ付、夫々当
社より立換資金取計事

一大坂より輸出米ニ付雇入之風帆船ダフン来ル廿日頃神戸入
港之筈ニ付、兵庫ニ而八千石請取度申立旁飯田へ打合候処、
式万石買付之内を以可成丈半方兵庫ニ而買入輸出来江相渡、
代りは大坂御蔵米可相払様取計方依頼有之事

一ダフン号千三百五十噸積

神戸
横濱ニ而龍動行ヲ取極レハ壹封ニ付六十志

同欧州行ヲ取極レハ 六十五志

同所ニ而行処ヲ極メスフアルモース江着之上龍動行ヲ極

メル時ハ 六拾貳志

同断欧州行ハ 六拾五志

右江米八千石、小麦貳千石積入之筈

一井上馨殿送り金を為換千三百弗取組方益田横濱ニ而取計事

一第七回サムサ号馬関輸出来可積入分横濱へ昨日入着

一洋壹万六千六百弗ハ第六回絨代内并第五回残洋旁今日支店

より十四番へ渡ス

七月十五日 休 晴

七月十六日 晴

一兵庫買米八千石は枿目立合出納ニ願出候様飯田より達有之
ニ付、直ニ電信ス

一長崎ワットソン渡米古米貳千石新米ニ振替之義同氏代人ヨ
リ申立ニ付、三野村打合、直ニ木村出納局へ罷出、飯田江
打合候処、新米ニ而交換致可然ニ付、其段電報ヲ以可申越
段即時達有之婦社候処、佐々木八郎も右事件談合ニ来店ニ
付、大蔵聞濟之義申聞電信セリ

一グレーミス、サイノシユール号式艘共積切之事

一大坂輸出来神戸積米八千石、小麦貳千余石英国風帆船ダフ
ン号江積入之袋詰達し方申出飯田ニ渡ス

一大坂・兵庫両地ニ而買入小麦貳千余石、大蔵省御買揚願書

同断

一神戸輸出来米万一引足不申節は、大坂買入米之内ヲ以立換方
大坂出納より御達相成候間、其節は大坂ニ而袋詰之上当社
より神戸江輸送可致段も飯田より達有之候事

一グレーミス号式万千百貳拾袋凡五斗八升入トシテ

一サイノシユール号米壹万四千四百五十袋、小麦貳百袋凡五
斗八升入 米8,381 麥1,188

七月十七日 晴

一 洋三千百拾三弗、荒石代上海売却

一金三千七百四拾円、横浜売同断

右七月中鉦山局へ相納手形長崎へ可差送筈

一 長崎ニ而大蔵省預り米ワツトソソ渡、残り壹万石迄は新古

米取交、速ニ出張出納局へ可相渡様電信可致、飯田権少書

記官ヨリ達有之 宮本

一 第七回神戸より輸米八千石兵庫ニ而一時ニ買入候而は直段

騰貴ニ付、兩地ニ而買入、大坂ハ袋詰之上送ルヘシト同断

飯田江相伺候上電信セリ 宮本

*「大坂より神戸へ船下二石五錢」

一 貳万石米代之内金五万円大坂出納より可相渡段電信今日本

局ヨリ申越相成候間、此方よりも申越可受取段飯田より達

有之、即刻拜司へ電信セリ 宮本

一 岩橋万造来店、伊勢丸遅速ニ相成候間、今日出帆致遠丸ヲ

以千石丈ニ而も積送り候様申越候との事ニ付、其段福永へ

申越ス

一 三野村利助来店、明治九年分計算表并履歴表とも一覽之上、

則写夫々相調同人江相渡置候事

一 グレーミス、サイノシユル号とも品海出帆候事

七月十八日 晴

一 大坂、兵庫ニ而米四万四千石買入着手、来月一日ヨリ追々

渡方相成候様手配可致段、今日午前十時郷大書記官より達

有之事

*「△ 益田木村横浜行」

一 益田今朝両艦見分其外トシテ横浜罷越候ニ付、前一件打合

として木村も罷越ス

*「第八回サマンサ号」

一 下ノ関より輸出来可積入船ハサマンサ号八百九拾九噸之由

一 第五号、貳号、同六号絨昨日入着、黄絨、緋絨廿三箱合シ

テ四拾三函入着、今日陸軍へ引込事

七月十九日 晴

一 第七回馬関輸出サマンサ号免状願并袋詰届等飯田へ差出候

事 木村

一 クレーミス、サイノシユル号積入届同断

一 広島丸入着、松方太輔殿帰東

*「宛」

一 兜町七月限五拾枚買理

一 同九月限売付五拾枚

一 第六回絨代金之内九千五百壹弗七分九リ并第七回之輸入税

其外之内四百九拾八弗貳分壹厘、合洋壹万弗支店より横浜

十四番江払入候事

七月廿日 晴

一陸軍渡大蔵省御買入米、兵庫・大坂ニ而四万四千石御申附之内金拾万円至急大坂ニ而御払渡相成度願書飯田へ差出ス
一金巾三幅物拾五迄高崎江差送呉候様古谷より申来ル
一古谷より老人手伝可差越申来候間、今晚馬車ニ而高崎迄差越事

*「宛」

一七月限買埋五拾枚 五円六十銭

一大坂ニ於而五万円出納局より受取之段電報有之式万石代之内

一浅草御蔵三陸米入札也 落札五円

七月廿一日

一杉孫七郎より松野半蔵ト申仁ヲ簿記見習ニ差入呉度頼越候事自費

一第七回絨代之内式万八千円請取候事

*「I. 773,882 在」

11,210 三銀幣

1,628 第一ノ」

七月廿二日休 晴 夕時大震

一郷大書記官より大坂・兵庫買米陸軍渡之内、上物ナレハ北

国米入交候而も宜敷、尤一日三千石宛渡方依頼之義西郷中将より電信有之由申来候間、大坂江申越候事^{廿三日}

七月廿三日 晴

一金拾万円大坂ニ而今明日間ニ下渡ニ可相成段、飯田より達相成候事

一中口周平来社、兼而益田へ申入置候大和石炭見本并採取人とも一同来話

勢州四日市出シ 掘採并運賃共壹万斤ニ付式十壹円

同松葉崎ノ脇 同 十九円

右巾三尺余ニ付数十里連続シ、一日ニ拾万斤掘採相成見積

ニ付、銀主致候哉、為換貸致候哉、両条之間引合度、尤開

成学校試験は炭素百分ノ六拾位ニ而、石塊ハ不殘炭ト相成

候由、四日市其外より運送、是ハ吠入ニして壹万斤ヲ四拾

石之割ニ受合可申見込之由申候、いつれ明日可罷出との事

一今朝益田大蔵省ニ抵り、郷殿ニ面会シ陸印米之事ヲ談ス、

出納局ニ壹万石の贏余ハアルヨシニ付、一時之繰換は夫ニ

而可弁答、仏出店之願ハ勸商局へ回達スルよしを聞く

一午後前田氏ニ面会ス

一佐々木、三野村来訪ス、ワツトソンより買入レタル米代価

ハ横浜の三井銀行へ払渡シ而宜キコトを約ス

一アルウィン并南保、富田冬三氏江出状ス、但シクレミユス、

サインノシユル送り状各巻通ツ、を双方江、雇船約定書ヲアルウインへ、井上氏江渋沢より之巻封、及井上氏両児、福沢塾之もの等を加封ス

〔注、右欄外鉛筆にて○印あり〕

一四日市へ出帖ス

一福永文七より三陸米四百俵着ス

七月廿四日 晴

一本日本村正幹住ノ江丸ニ乗込大阪江向ケ出帆ニ相成、午後一時十五分ノ気車にて益田同道ニ出港之事、但シ住ノ江丸午後六時横浜出帆ス

*「△」〔注、△は「益田同道」の文字上欄にあり〕

七月廿五日

一朝十一時松方大輔の命ニ抛り而益田大蔵省へ至ル、出店の談アリ

郷大書記官殿より米之事談アリ、下ノ関北国米八千石義相渡し而よし、陸軍へ半分北国米玄米ハ試□之上可受取との事、右隔日ニ三千石渡ス筈とのよし

一勸商局長河瀬氏ニ面会ス

一松本良順来社ス

一上海より四千弗入手ス、茶代之内と云フ、尤此茶ニ付而は

大ニ議論アリ

一ヒットマン来社ス、^{上海}厦門より米何程ナレハ売ルト申越せり、郷殿江明日可承事

一中島婦社ス

一松方殿より博覧会願返却ス、但しいつれ用達之命□□^(有之カ)□よし〔注、右欄外鉛筆にて○印あり〕

七月廿七日 陰

一馬関秋元へ内券(丑乙一九号)ニ而金壹万円送ル
一致遠丸積込米之儀岩橋万造ニ再応面談之上、同船ハ彼ニ為任、其代リニ撰津丸へ当社之分積取候筈示談行届キ、岩橋より撰津丸船長江之書状相渡候ニ付、右を封入シ福永文七江郵便出ス

一仏都巴里斯へ支店設立ニ付、明年同府大博覧会へ出品荷物取扱方広告(巻週間)日報・々知両社へ依頼ス

一中島新三義当分駿河町支店詰申達ス

一日報社新聞用紙約定継続相成、十四番へモ申遣ス

一倫敦アルヒン江電信を打ツ

七月廿八日 陰晴不定

一宮本新右衛門大蔵省出納局へ出、御買上米四万四千石の代価之内金拾万円大坂電信為換之分切符受取来ル

- 一 横浜より坪内安久出京ス
- 一 同所より洋銀三千三百弗荷物方便ニ而到来ス
- 一 第七回の絨代価五千弗相払候付、受取証書拾四番より到来ス

七月廿九日

休

七月卅日

*△
御還幸ニ付供奉之官員方出迎トシテ益田孝横濱江出役、午後帰社

- 一 第七回絨代価之内五千弗之証書横濱拾四番より到来ス
- 一 四日市駒田より米代金千円内券ニ而到来ス

一 大政官旁殿江之横文面状郵便ニ而出去

一 一昨廿八日出納局より御下ケ相成候米代金拾万円之切符、

大坂本郵拜司へ宛書留郵便ニ而出去

*△

一 益田孝七時之車ニ而出浜シ、東洋銀行へ抵り絨毛布為荷換之事ヲ内談ス

一 拾四番ニ至リ諸勘定等之事ヲ詰決ス

小麦厦門ニ而式弗式分ニは売却シ得ヘキニ付、神戸在荷之

分同処江積入可然考案アリ

午後一時之車ニ而ヒットマン同道帰京ス

一 木村氏廿七日夕着坂之よし

一 午後二時半郷殿私宅ニ至リ、大坂より電報四万式千石買付之事ヲ報シ、五千石過分之事を謝す、五千石位之過分は敢而妨ケ勿ルベシトノ答なり、○下ノ関式百艘北国米入津シ、急ニ正米下落せしを報ス、安直ナレハ少々ツ、式万石位は買入而もよしとの事ナリ、然し都合尚可談との事

小麦を或ハ厦門江輸出スル方上策ナルベシトノ考案ヲも建言せし処、可然との事なり、尤此小麦ハ御買上ニ取極メたる歟、真ニ麦ナレハ御買上ニ可取計との談アリ

一 明日第四時より五時之間ヒットマン同道可相越旨大藏卿より達アリ

七月卅一日

一 朝益田出納局へ出張、本日中大坂ニ於而拾万円請取方出願いたし、直チニ宮本ヲ以書面ヲ出シ、十一時同地江電信ヲ以達アリシヨシ

一 十一時松方大輔殿より之御用ニ寄而孝出張ス、仏博覧会并出店之一条ナリ

続而郷殿ニ面会ス、鹿児島送り米下ノ関ニ而凡式万石可相成廉直之もの買入可申、且ツ運賃(和船)取調可申旨内達

八月三日

一坪内安久来社

一金壹万五千円正金ニテ石井金之助横浜支店へ持セ遣ス事

一八回絨代金之内トシテ、本日陸軍省第二課より金貳万七千円受取候事

一益田大藏省へ出省ス、郷殿より下ノ関船ハ陸軍運輸局より可相回、其旨同処江案内致呉候様との事なり、尤船ハ凡五千石積之筈ニ有之よし、アト米鹿児島へ運輸ハ五十錢より六十錢までニ而諸入費相込、和船ニ而被積可申事申立置ク、受渡之ため尅人乗組ませ候事も命令アリ、右一々秋本へ電信ス

一熊本金子へ出状ス

一本日千俵入札ニ而売ル、いつれも五升

八月四日

一今朝益田、松方大輔江抵ル

一今朝召ニ応し而鉦山局へ益田抵ル、佐藤局長近日三池江出張とのよし、右ニ付運送船等之事談アリ

一武蔵権八来ル、千早丸当月十五日漸く釜石出帆とのよしニ付、其旨申聞置

一昨日出納局より御下附之五万円之切符、本日郵便にて大阪支店へ差出ス

一原六郎来社

一神戸運輸局より、馬関より鹿児島工和歌の浦丸にて米廻送可致、大藏省電報有之旨松方殿より通知有之候事

八月五日

休

同日 六日

岩代福島佐野理八より仏都巴里斯へ支店開設之趣新聞上紙ニ而承知、就而ハ該店規則其外承知致し度趣之書状一昨日到来之分返書認メ、規則書別郵便出ス

一横浜三井銀行へワチソン代理佐々木八郎へ可相渡金貳万貳千八百九拾六円五拾壹錢内券ニ而差送ル

一金三千七百四拾円、洋銀三千百拾三弗、右者三池石炭上海

并ニ横浜ニ於テ売却代価之内トシテ本日鉦山局江上納ス

一午後益田孝大藏卿ノ邸ニ抵り為替之事等ヲ上申ス

一午前大藏省へ出仕、郷殿ニ面会シ、馬関より鹿児島回シノ米ハ小枅、斗枅いつれニ而も梟之望みニ從引渡可申旨申立置ク、且ツ仏国江出店ニ付而ハ大藏省為換御用被仰付度旨之書面ヲ差出ス

但し先急保護願之儀御沙汰程被及、内諭ありて書面御下渡となり

八月初七

*₁₀

一 蛸殻町今日八月限買埋メ

五十枚

五十枚 同 五円七十七銭

一 蛸殻町十月限売

五十枚

三十枚 同 五円九十九銭

米又

一 本日御蔵の相落チノ米七千七百円余相括、本切手受取商社

江遣ス

一 浅田某肥前ノ人、雉子橋之周旋ニ寄り而仏出店之方手代ニ備入ル、今日初而面会シ室町江送ル

一 今日貳万八千石ノ代金江四万円受取ル

一 午後ツイセル来社ス、ダフン神戸江昨夜着之報知有之タル由、碇泊日数式十日

由、碇泊日数式十日

一 サマンサは碇泊日数三十日、未夕横須賀ニアルよし

一 午後横浜より深江来社ス、八王子江発途セント、金五千元

入用之趣なり

*₁₀ 一 今日兜町八月限買埋メ六拾八枚

八枚 五円八十三銭

三十四枚 八十五銭

*₁₀ 一 同十月限売附 貳拾枚

九枚 六円〇三銭

六円〇三銭

*₁₀ 一 同十月限売附 三拾枚

十五枚 六円〇三銭

〇三銭

八月八日 朝雨 午時より天気

一出納局より呼出しニ付宮本出仕ス、下ノ閑陸軍渡方之義如何哉見すなりキ、未夕報知無之ヲ以早速電信ス

一 サイノシユル、グレイミス立換洋銀今日大蔵省より受取ル

其額ハ

*₁₀ 一 八月限買埋メ 百廿四枚

五、五円七十五銭

十七 七十七銭

八十銭

七十六銭

三十一 七十八銭

七十九銭

*₁₀ 同所

一 十月限売付ケ 百廿枚

十五、九十三銭

三十五枚 九十壹銭

十枚 九拾貳銭

九十三銭

三十枚 九拾壹銭

八、九拾銭

是ニ而八月限買埋メ都合 式百四拾貳枚

十月限昨今両日ニ而売付 貳百貳拾枚

*₁₀ 同所 一 十月限売附ケ 百枚

五十枚 五円九拾九銭

三十枚 八拾九銭

貳拾枚 五円八拾九銭

八月九日 晴

一 本日東京丸便ヲ以テ大阪、長崎へ書状出ス、馬関秋本江内券ヲ以テ金三万円送ル

一西京丸便にて大阪并長崎より来状有之事

*[兜町]

一八月限買埋メ 七拾枚

壹十一 七拾貳錢
五十八 七十四錢

〆三百拾貳枚

*[同所]

一十月限売付 八十貳枚

十 五円八十五錢 八十貳錢 六 八十四
貳十 八十四錢 壹五 八十六錢
三十五 八十三錢 壹五 八十五錢

〆三百貳枚 外二百枚

一今日出納局へフリユルカスル、ワイキン号勘定書二通并洋銀共差出ス

一下ノ関積サマンサ船四百頓丈ケ横浜ニ而積込ムニ付、其頓数丈ケ壹頓五志ニ減却スルコト昨日フィセルより申越せしニ付、即チ今朝出納局へ申出許可ヲ得タリ

一今朝勝部元右衛門伴来社シ面会シ申込し事ハ、追而可否揆摺スベシト答へ置ケリ

元八月限り売り 千〇三拾枚売り

内三百拾貳枚 買埋メ

〆残り七百拾八枚

昨日御蔵払米下り米高直六円拾錢より安直五円六十五錢ニ而貳万四千俵

十月限是迄売付六百貳枚此内八月限垂換分三百拾貳枚〆貳百九拾枚

八月十日 晴

*[〇] 一 蛸殻町八月限買埋四拾八枚

壹十五枚 五円七十七錢 貳拾貳枚 五円八十錢
七十九錢

一同九月限四拾枚

売附 拾枚 五円八拾八錢 拾四枚 五円八十六錢
拾五枚 八拾七錢 拾枚 五円八十八錢五り

一倫敦アルヒン江電信ヲ打ツ并ニ郵便ヲ出ス

一坪内安久来社

一下ノ関買入北国米貳万石、大阪・兵庫買入米四万貳千石代金之内トシテ金七万円御下渡シ被下度旨、出納局へ出願候事

一兜町米商会所売付百三拾八枚

内九月限五拾七枚 十枚 五円八十七錢 貳枚 五円八十
四十五枚 八十六錢 五拾五枚 五拾五枚 五拾五枚

*[〇] 一同十月限八拾壹枚 六枚 五円九十錢 貳十八枚 五円八十八錢
四十七枚 八十九錢

一前同断八月限買埋百三拾八枚

四枚 五円八十錢 壹枚 五円八拾貳錢
百廿壹枚 八十錢 四枚 八拾錢
七枚 五円八十錢 四枚 五円八拾錢

一今日益田大蔵省へ罷出、郷殿ニ面会シ金之下渡ヲ歎願ス、且ツ下ノ関悉皆買付相成リシ趣も届ケ置ケク

一 利涉丸今日無事着、明日より荷揚之事

一 アルウィン江郵便出ス、伊藤参議并井上議官江ノ書状封中
ス

一 アルウィン江電信ス、米之一条

八月十一日

一 出納局江益田出頭、金催促ヲ為ス

一 今日井上君江出状ス、為替第二号送ル

一 今便ニ而荒井系作より佐藤送り之生糸積出ス

一 佐藤桃太郎へ出状ス

一 金五千円三井銀行内券ヲ以テ横浜支店へ送ル

一 兜町十月限五拾枚

買埋	五枚	五円七十六銭	三十枚	五円七十八銭
	十枚	——七十七銭	五枚	——七十九銭

八月十二日

一 兜町米商会所十月限売附百五拾枚

内訳	三拾枚	五円六拾六銭	百十枚	五円六拾五銭
	十枚	——六拾四銭		

八月十三日

一 大阪・兵庫ニ於テ買入米四万式千石之代金之内トシテ、出
納局より金貳万円受取ル

一 風帆船ダフン号去ル六日神戸港江着船候ニ付、欧州へ輸出
ノ御米積込相始メ候趣申越候間、不取敢出納局へ御届書差
出し候事

一 金八万円出納局へ御下渡し相願候、内訳金五万円ハ下ノ関
買入北国米貳万石代金之内第二回也、金三万円ハ大阪・兵
庫買入米四万式千石代金之内第四回御下渡金也

一 佐々木八郎殿、成島柳北殿来社

一 開拓使貸附係より材木入費御下渡有之旨達しニ付、御達し
書ハ井田一平へ持セ遣ス

一 福永文七より千早丸空船ニ而帰ル云云電信到来セシニ付、

益田浜町広瀬氏并鉢山局長江面会、是非積入之事願出速ニ
相運ビ、同局より千早丸へ達示可有之旨ニ付、早々積入着
手セヨト福永へ返電ス

八月十四日

一 大阪・兵庫ニ於買入米四万式千石之代金之内トシテ金三万
円本日出納局より受取ル

一 グラハ来社、井田一平来社

一 坪内安久来社ス

一 木村来ル廿一日飛脚船にて必ス帰ルト電信在

一 軍粗済ンタ様子ナリト羽太より電信来ル

一 開拓使より材木入費金五百九拾円九拾式銭七厘受取り、直

ニ井田一平江渡ス、同使へ差出シタル受取書ノ裏面ニ同人
之受取書アリ

八月十五日

- 一金三万円内券ヲ以テ馬関秋本弘輔へ本日西京丸便ニテ送ル
- 一西京丸便ヲ以テ長崎・馬関・大阪支店へ書状出候事
- 一夕刻より益田大隈邸へ行
- 一金山孝輔本日より通勤間届候事

十六日 木曜日 晴

- 一金三万九千八拾円四拾五錢大坂ニ而ワットソンより買入米
代金として、横浜三井銀行へ東京本店内券ニ而送候事
- 一玄武丸、乗風丸引合ノ為メ今朝益田開拓使へ出頭之事
- 一昨夜古屋竜三上州より帰社候事
- 一深井太七義従来取立掛之処、今般浜支店より願出候ニ付、
手代席申付月給拾五円ト申渡候事
- 一同店根岸半次郎義当度改め雇入、手代席申付月給拾三円五
十錢ト申渡候事
- 一來十月上旬堅米五千石馬関ニ而入用ニ付、当社ニ而引受呉
候様ワットソン代理佐々木より頼談有之、早速秋本へ電信
ニ而櫓渡し備幾何ノ見込か問合セタリ
- 一龍動アルウイン并ジヨンマート氏より来状并彈藥送り状、

同引替切手等落手ス

八月十七日 金曜日 晴

- 一仏船ウオルガー号ニテ羅紗三十九箱入港之趣ニ付、浜支店
より内案状来ル
- 一蛸殻町九月限り売附四百枚 五円六十四錢
- 一同八月限り買理四百枚 五円五十錢
- 一山口県第二課より仏国博覧会出品委託致度ニ付、運輸費、
陳列費等之都合有之ニ付、急ギ返事ヲまつト電報アリタリ
- 一本日室町支店へ大隈公、伊藤公等御来店之事

十八日

- 一兜町米商会所十月限買理八十枚
十五枚 五円四十六錢 四十枚 五円四十八錢
廿五枚 四十七錢
- 一同 十月限買理五十枚
十枚 五円四十五錢 十五枚 五円四十八錢
十枚 四十六錢 十五枚 四十九錢
- 一山口県第二課へ昨日之電報ニ対し返事ス
- 一昨日横浜支店より仏国船ニ而条約緞四拾三箱入港之旨申越
ス
- 一武之助殿病氣ニ而出勤なし
- 一昨日は大蔵卿輔、外務大輔、内務少輔、勸商局長等室町支

店検査トシ而被相越、諸蒐集之物品一々点検セラレタリ

一坪内安久、古谷来社シ生糸為替引続キ貸付之事相談シ、古

谷は明日より又々上州江出張の筈、金老万円持参ナサシム

一岩橋万蔵来社シ、帆前船難破ニ付アト始末の事追々相談ア

リ、到底今月中猶予ヲ頼ノム故ニもし猶予ヲ望ムナレリ、

致遠丸ニ而色く少々ツ、なりと運輸可致旨ヲ談判スレ共、

同船ハ外との約条モアリ而、何分談判調ハス帰去ル

一今日下ノ関ニ而堅米四千石、長崎ニ而千三百石売り払而よ

しと電報ス

*^九一兜町米商会所九月限買埋百五拾枚

十五枚 五円四十七銭 九十枚 五円四十九銭
十五枚 四十八銭 三十枚 五十銭

一同断十月限買埋百九十九枚

壹枚 五円四十九銭 貳拾九枚 五円五十壹銭
貳十八枚 五十銭 百三十一枚 五十貳銭
十枚 五円五十三銭

一カキ殻町米商会所八月限買埋

拾枚 内五枚 五円四十五銭
五枚 四十六銭

一孝今朝大蔵省へ出、郷殿二面会ス、談小麦之事ニ及フ、

段々談論ノ上、小麦大坂并兵庫ニ而積入之分損益式ツ分ケ、

大蔵省ト当社ト受持チ之事ヲ約ス、其試験ナルヲ以なり

八月十九日 日曜日ニ付休

一上海より電信ニ而硫酸ノ^{約定ノ}売込高等問合せアリし、即刻大坂

江電信し而造幣寮へ照会ヲ托ス

一仙台石ノ巻より電信アリ而、千早丸は貳千六百石ヲ積而十

七日出帆セリト

一拾四番より報知ニ、厦門米はシマリ、小麦は極上百斤ニ付

貳弗なりト

八月廿日

一下ノ関江十五日ノ飛脚船ニ而内券三万円之送り分届カサル

趣電信アリ

一陸軍条約紙四拾三箱本日同省へ持込、内金三万円下ケ渡シ

義受取書相添へ差出ス

一兜町十月限り七拾九枚

買埋 八枚 五円五十壹銭 五枚 五円五十三銭
六拾六枚 五十貳銭

一兜町十月限 百枚

買埋 貳十枚 五円四十五銭 五十五枚 五円四十七銭
貳十五枚 四十六銭

一下ノ関ニて鹿児島廻シ見込米之内、高千穂丸ニて千石積込、
下ノ関ニテ三千四百石積込様郷様より被仰候事

八月廿一日

一上海フリ子エ電信ヲ打ツ

一西洋紙廿三リーム式箱荷物方より持込受取

一本日之飛脚船にて木村帰京之由、大阪より電報有之候事

一坪内安久来社之事

一前田殿来社之事

一金參千參百拾七円六十式錢也 第貳十七号大阪銀行内券支店より

一同八拾八円七拾五錢也

一洪沢栄一殿来社

一陸軍条約六回メ着、残金三千四百六拾三円九十壹錢三リ受

取勘定済、同七回メ三千七百貳拾円三拾七錢八リ受取勘定

済之事

同 廿二日

一今朝第七時益田横濱行之事

一第十一時頃ニ出納局より可能出様御達し有之、養之助殿出

頭ス、然ル処兼而郷様より御達ニ被成候高千穂丸ニ本日出

帆ニ付、馬関秋本江添書ヲ差出ス様御談ニ付、武之助横濱

へ參り、右添書益田より受取、同道シテ二時三十四分ニテ

帰東ス

一陸軍省条約九回メ式号緘六拾反、五号百九拾八反、内金ト

シテ陸軍より受取ル

八月廿三日

*〔△〕〔注、△印は左の二項に跨っている〕

一今朝木村帰京ニ付益田横濱へ行事

一今朝木村広島丸にて帰京ス、第十二時気車にて益田同道帰

社ス

一本日迄売り断殺町

八月限 百四拾貳枚 五円三拾三錢

九月限 三拾九枚 五円八拾七錢

同 拾枚 平均 五円八拾八錢

同 四百枚 平均 五円六拾四錢

同 平均 五円四十八錢

一九月限兜町 百六拾七枚

一十月限兜町 貳百貳拾五枚

惣メ 九百八拾三枚

一陸軍条約緘緘六十六反、五号百六拾貳反、第八回メ殘金ト

シテ式千九百六拾円貳拾三錢壹厘受取勘定済

一仏国出店ニ付欧州為換其外御用之義取扱方願出置候処、願

出之趣聞置候、取扱順序方法之義ハ取調之上追而可相達事

ト本日大藏卿代理松方大輔殿より指令書下附ニ付、請取差

出候事

八月廿四日 曇

一清国上海ニ於て而銀銅貨兌換願書渋沢ト連名ヲ以、今日大蔵卿へ願書差出候事 益田持参

一三野村ガラハ来訪

一高崎出張古谷江前五時ノ馬車ニて金壹万円長谷ニ持セ遣ス事

一浅草御蔵勢州米五円六十銭ヨリ安直四円五十銭、美濃米高直五円式十五銭、安直四円五十銭、遠州五円五十五銭ニ而壹万千七百拾壹俵不残落札相成候事

一千早丸第三時四十五分品川海へ着船候事

八月廿五日

一千早丸品川港へ入船ニ付鉾山局より御呼出有之出頭、陸揚之手配早々可致様御申談の事

一追々米之出入勘定試候処、長崎過米千三百石余、然し是は軍団売之内江組込メハ済ムニ付、残ラス出納局へ渡シ、増田幸七出京之事申遣ス、大坂ニ而凡千七百七拾六石余之余分アリ、抛而九日限り式千石売付ケ之事申遣ス

但し大坂ニ於て而ワットソンより買米ヲ引当ニ九月限り四千石売付ケタル処(四十銭迄)、十七銭内外ニ而式千式百五拾石買埋メタリ、然ルニ相場式拾三四銭ニ立戻リタレハ、又々三千石ノ売り注文ヲ今朝申遣シタリ

一龍動八月廿三日出之電報落手、云ク

新潟丸の米は満足ニ陸揚せり、其内B勢州六千五百五拾九俵十式志六片ニ売却せり、欠減凡式分ト八分ノ三ニ不過、アト九月中至急御輸出アランコトを冀望ス

開拓使江乘風丸之義ニ付出帖ス

一第七回輸出来積英国風帆船サマンサ号依願、横浜ニ而凡四百噸此米式千八百余石積入頃日相済、馬関江向ケ出帆ニ付、大坂より田中藤助至急出張之義、尚取扱方等電信并郵便ヲ以指令ス

八月廿六日 休

一今夜大風、地震等アリ

一大坂ニ而九月限三千石昨日売附注文式拾式銭売附電信来ル

八月廿七日 晴

*[天坂九月限六千七百五十五石改]

一大阪九月限アト注文式千石売附式拾四銭七厘出来之義電信来ル、都合売附高六千七百五拾石ナリ

*△△

一昨日龍動電報ニ而アルウインより三万弗拾壹番江預リ金致セシ由申来ニ付、今日東洋銀行談判として益田出浜

一新潟丸B印米売却届ケ并当時直段計算書(電報ノ分)相添、大

蔵省へ差出ス

一 同船積入米右払残り拾貳志三片ニ不残売却之電報来ルニ付、口上ヲ以大蔵省へ申出置候事

一 佐々木八郎来訪、馬関米一件いつれ一兩日中出京可申談申居候事

一 大蔵省御注文スナイトル彈藥横浜来着之内拾万発上海品川領事江送り方分、三菱広島丸来ル三十日發船便を以送致候付、渡方達書国債局ヨリ来ル、尤三菱受書写とも直ニ横濱へ差送候事

一 同省議案課ヨリ呼出宮本差出候処、鹿児島県へ和歌浦丸ヲ以送り方致し、五千石米代価凡見込ニ而も書出呉候様申来候ニ付、出納ヲ経テ御答可申上段断置候事

一 開拓使小牧昌業ヨリ来書

乗風丸一昨日上海出帆、不日長崎着ニ付荷積配慮致度依頼、并玄武丸は北海道貨物運送多端ニ付、陸前地方回航之義求ニ難応義申来ル

一 第七回輸出来事件馬関秋本へ郵便出ス、并二田中へ横浜税関届米高写差送候事

八月廿八日 晴

一 兜町十月限百七拾枚買埋 本場東廻シ

内四拾枚 4.97 百拾枚 4.98 貳十枚 4.99

一 同四拾枚同断 貳番付出し同断

内十五枚 4.97 貳十五枚 4.98

一金四万四千貳百八拾貳円五拾三錢、此米九千三石四斗五升六合、石ニ付四円九拾壹錢余馬関御買入米代金払証書下渡相成ニ付、如例小切紙下紙ヲ以右金受取米預リ申候段小印ヲ押シ、明日宮本ヲ以出納局へ差出ス

一 スナイトル彈藥拾万発上海送候ニ付、海上受合手数取計方大蔵省ヨリ御達有之、直ニ十四番へ申越ス

一 鉦山局三池事件抵当地券入換之義申立候処、可聞届ニ付明日書面可差出との事

一 同千早丸積米貳千六百廿壹石三斗五升、運賃割三千石ニ付千円之割を以、八百六拾六円六十六錢七り明日上納致ス

一 馬関買付北国米貳万石代金之内、第貳回金五万円出納局ヨリ今日請取、直ニ銀行江廻ス

一 兜町十月限拾五枚買埋 貳番東印 4.890

一 神戸海岸六丁目浅海庄蔵方ヨリ馬越電信、野田一同今日午後六時出帆東京丸ニ而帰東

一 蛸殻丁九月限三百枚買埋 4.600

右は仲買柴崎守蔵ヲ以島慶ヨリ貰請度談示、尤渋沢卜両家ニ而六百枚申請度段も懇願ニ付、午後六時前讓渡決答ス、依而最初ヨリ相談人辻純市へ渋沢当方ヨリ代トシテ米又差遣シ、明朝付出之筈ニ届出置候事

一 スナイトル彈藥千式百九十四箱横浜今日積成、残り五拾箱
上海行之分三菱江相渡、請取書長尾一より差送候事

八月廿九日 晴

一 昨日島慶へ讓渡之九月限買理帳合今朝相濟、買理切紙米又
より差出候事

一 十月限兜町百式拾枚買付 米又東廻し
前本

三十枚 四円八十九錢 五十五枚 九十三錢
十枚 九十二錢 廿五枚 九十三錢

*「更二初ル 平均 4.914」

一 同八拾枚買付 貳番付出し 同東廻し

三拾枚 四円九十二錢 三拾枚 九十三錢
貳拾枚 九十三錢

*「平 4.919」

一 中島新三事仏國博覧会出品依頼用并同用建築事件共引請取
扱方申付候事

一 上海送リスナイトル彈藥拾万発請取書三菱より差出候分印

紙粘用ニ付、大藏省へ差出候而差障無之哉、横浜へ掛合越
候事

八月三十日 晴

一 東洋銀行本店ヨリ電信ニ而アルウインより三万弗入金致セ
シ由ニ付、横浜同行ロセルヨリ三井銀行受合ニ相立候哉掛

合トシテ三野村へ書状差越候ニ付、持參候而談合之上何時
も差障無之由答有之事

一 淺草御藏入札三陸米代金貳千円余今日上納日ニ付、田中長
右衛門為持差出候事

*「△」

一 今日東京丸帰浜、馬越長崎より帰ル、野田軍吏一寸帰東候
由ニ付、益田迎旁トシテ出浜候事

一 和歌浦丸積馬関北國米計算大略書類差出候様大藏省議案課
より申付ニ付、買入代并受米入費并渡米其外諸入費引当之
分とも差出候事

一 昨日大坂九月限三千枚買理メ平均貳十錢電報來ル

八月三十一日 晴

一 昨日広島丸横浜出港ニ付、長崎、馬関、大坂田中藤助等へ
出状ス

一 多久石炭約定引続キ六ヶ月取結方可成丈安直ニ取結ムヘシ
ト決定之義、羽太江電信ス

一 千早丸積三陸米貳俵不足之儀米方より福永へ申越ス

一 新報局利益分賦金分与之分申渡ス

一 約条五号絨三拾箱、此ヤール壹万貳千七百七拾七ヤール、貳
号同九箱、此ヤール三千貳百九十八ヤール横浜着、アト五
号式拾五箱次ノ飛脚船ニ而入着之筈、陸軍江届出候事

九月一日 晴 二百十日

一約定絨為換金之義ニ付、東洋銀行ヨリ三井銀行保証書案益田へ相廻候分三野村へ渡候、来ル三日相調候筈

一第七回サマンサ号東京積入米請取証書四葉十四番より受取一滋賀県管下高島郡饗庭林大曠野地面井上馨持所之分、地味検査として大坂ヒツセル商会在留蘭人エリエント申者出張ニ付、案内人入費立換之義県庁江相頼置、追而同地三井銀行ヨリ返納可致段、県令其段正幹より申越置候付、本行ヨリ右仕払通達方致置候様申越置候事

一横浜信州屋并ブラガ来社、田中平八同断

一島方交代小倉本社詰、岡本出張昨日之事

九月二日休 晴

九月三日 曇

一香港滞在ヒツトマンより米送り方之儀電信ニテ、兵庫北国米四円五十銭内外ニテ買ハレルナラ式千石買付、明日迄同港入着之船江直ニ積入可申、尤手統等ハシンブソン問合可取計旨、拜司江電信并出状セリ

一渋沢持三陸米式斗壹升ニ支那人より買取候由五千俵上来也

一野田軍吏正再度九州出張、今日陸路出發

*[△]

一益田出浜、右は東洋銀行絨為替談判之為也

*[□]日売附

一兜町十月限売埋百貳拾九枚 東店

五枚 五一拾貳錢、六十枚 五一十壹錢、六十四枚 五一十錢

一同七拾壹枚売埋 東店

壹枚 五一拾錢、十五枚 五一〇九錢、五拾五枚 五一〇八錢

一同十一月限貳百枚売附

貳十枚 五一〇八錢、九拾枚 五一〇七錢、九十枚 五一〇六錢

右九月一日付落

九月四日 雨

一昨日横浜東洋銀行へ三井銀行より之保証状ヲ遣し而、龍動江八万五千磅之為替ヲ依托セリ、且ツ当社保証状ヲモ交付セリ

一今日龍動江電信し而、黄絨九百碼、伝票九十九号ト同載百五十四号之分ヲ注文セリ

一アルウィン江出帖ス

一ダブン船積証書落手セリ、大坂拜司より

一品川沖(横浜積)より龍動江下ノ関より同所へ送り米有之ニ付、壹艘雇入方フェイスルニ托セリ

一横浜尾形より依頼之三陸米ハ昨日横浜店ニ而断り申遣候事

一 佐々木八郎二面会シ、下ノ関売り米断リ候事

一 兜町十一月限百〇四枚売附 東印

貳枚 五円貳十三銭 十五枚——貳拾貳銭

六拾貳枚——貳十壹銭 貳拾五枚——貳拾銭

一 同限五拾壹枚売附 東印

貳拾枚 五円貳十三銭 三十壹枚——貳十貳銭

一 陸軍約定絨第十回入着引込ニ付、内金トシテ三万貳千円請取候事

九月五日 雨

一 東京丸出帆ニ付大坂、長崎、上海へ出状ス

一 今朝兜町十一月限寄附五円十九銭之処、大倉組西館注文之由を以三十壹銭迄も騰貴致候事

*一九

一 九月限兜町三拾枚買埋 東印

壹枚 四——九十七銭 貳拾九枚 五円

一 横浜支店長交代左之通

坪内安久

右当分横浜支店長申付置候処差免、更ニ仏国博覧会事務

取扱申付候事

馬越恭平

右当分横浜支店長申付候事、但本社売買方従前之心得を

以兼勤候事

右相達銀行江も通知致候事

一 中島新三義、春來戦争之地奔走旁ニ付手代席ニ備入、月給

貳拾円宛支給之義申達ス

一 伊達忠七儀、仏国行前田ト同行候而は依頼品等差障ニ付、

坪内安久ヲ先行ト決議ス

一 兜町九月限 三拾枚 東印

買埋 壹枚 四円九拾七銭
貳十九枚 五円也

二重ニ付消シ (注、右二行の間に書かれている)

九月六日 晴

一 鉢山局より呼出しニ付養之助殿出頭相成候処、先般佐渡出

張処江三池当支店より塊炭三万四千斤送り方致、右代千拾

四円六拾銭、外ニ清昌丸船頭松田卯之藏へ操替前貸金三拾

円共合千四拾四円六拾銭之辻御下渡相成候ニ付、長崎支店

へ入記為致、三池江も其段通知可致事

一 大藏省より益田呼出有之、石巻ニ而米買入支那積送之事郷

殿より談アリ

一 正米売捌キ俵員・石数・代価

一 正米取入高 一 正米残有高

右月報 毎月末迄之分翌月初日ニ差出之事

一 正米有高

右周報 毎土曜日迄之分月曜日朝迄ニ可差出之事

右正米方

一 諸物品仕入数并代価 惣代価 但

一 諸物品売揚并代価 同 但シ依頼品共

一 諸物品残有高 但シ依頼品及仕入品共

右売買方

右之通り報告書元方江可差出段達ス

一 上海ニ而売捌之為メ旧銅貨并銀貨各五千円ツ、大蔵省より

下渡之義、第一国立銀行と共に願出ス

一 勸農局へ益田出頭し、富岡生糸売捌之義引受願出ル、奥村

某へ委細弁解ス

一 フイセル来社ス

一 三井銀行より出し呉レタル保証書東洋銀行ニ而相知ニ付

引換、先前之分ハ今日返却ス、合セ而東洋銀行より三井銀

行へ宛書状差出ス、六千磅アルウィンより預ケシ分引留メ

置候一条なり

九月七日 晴

一 金壹万五千円三井銀行内券内丑乙四八号ヲ以テ横浜支店へ

差送り候事 但シ荷物方便

一 ワイキン、フルユルカスル勘定書出納局江差出ス

一 千早丸雇総願書ヲ鉾山局江出ス

一 昨日アルウィンより電信アリ

一 出納局へ益田孝出張ス、飯田殿より下ノ関之米堅米、残り

米も輸出難相成旨被申聞、抛面フイセル江は船減方申送ル

一 九月限前七拾六枚 買埋 二十六枚 5,030 四十枚 5,020

一 九月限後三枚 買埋 5,040

九月八日

* [九] 一 兜町九月限買埋 九枚 五円拾銭

* [118.]

一 八王子出張古谷龍造江金壹万円深沢ヲ以テ差送り候事

(マ)

* [三] 5,520

第一 4,100]

九月九日 休 雨

九月十日 晴

一 斎藤、武蔵乗合米代金之内同人方より差金之内追々米着ニ

付、先達而五百円引当貸渡候処、此度尚依頼ニ付八百円貸

渡可申処、武蔵帰郷ニ付電信を以掛合之上証書取置、木下

江相渡ス

一 三野村両度、前田京平来訪

一 糸平より香港へ米価聞合電信依頼ニ付即刻出ス

一 肥後小島米寿方船乗諸入費取戻之内、半方心配、尚迷惑ニ

付差遣度出張弥市より申来候付、評議之上右半方差遣儀ハ

不筋ニ付相断、不残取戻、別段^(森カ)来心配旁為挨拶金貳百円

遣候事ヲ決シ出状ス

一 兜町十一月限売附百枚 貳番 米又

内 貳拾枚 五円三十貳錢 四十枚 —— 三十壹錢
四拾枚 —— 三十錢

*〔九〕
一同九月限買埋貳拾枚

内 十枚 五円——五錢 十枚 五円——六錢

一金壹万五千元之辻上州出張古谷方江明朝馬車を以長谷ヲ以

送ル

九月十一日

*〔九〕
一 兜町九月限九枚買埋終リ

五円 貳枚 五円〇壹錢 四枚 同貳錢 貳枚 同三錢 壹枚

一 三菱風帆須磨浦丸江石巻ニ而三千石積取之約定調印済、百

石ニ付七拾貳円之筈、同社船本龍之助江宮本より引合、碇

泊日数四日之処、更ニ五日ニ談判済

一 三陸米千四百俵売八百円手金受取

一 陸軍約定絨不足ニ付書面差出候処、確証可差出候様ニ御談
有之候事

一 渋沢、益田、三野村三名今夕ヨリ熱海行、大印見舞也、十
四日帰東之筈

九月十二日

一 西京丸出帆ニ付、長崎、上海、馬関、大坂へ出状セリ

一 神戸よりシンブソン馬関行ニ付、添状十四番へ渡ス

一 約定金拾壹回入着、五号絨三拾七箱明日氣車ニ而差送候筈

一 石巻積米三千石之内、高橋長三郎米五百石積入候事ニ決ス、
今井依頼之故ヲ以右へ当候金受取事

*〔△〕

一 横浜支店茶云々ニ付、第十二時より木村出浜

一同店茶課田口留七儀^〇館より可請取金八千貳拾貳弗五分七

厘自分引込置、不渡申立居候処露顯ニ及び、段々取糺候処、
内六千四百〇九弗五分^〇九厘

致置、実ニ不残買取、其茶既ニ夫々合茶ニ而売払、或は残

茶ニ相成居、又六百三拾壹弗は即今手元ニ有之分今日取返

し入金致し、貳百貳拾九弗式分は諸払ニ相成、千九百四拾

九弗三分三厘ハ旧国産方取扱中より引負有之筈、暫時入置、

全差引残り九百九拾三弗五分三厘之辻当社ニ相成諸入費等

二而、仕払或ハ預り金ニ成居候段、書面を以申立候付、夫々取糺申付置

九月十三日

一 第八回輸出横浜積米国船アソニ一号雇入、今日ヨリ日曜日ヲ除キ日数廿日碇泊ヲ以約定候間、米七千五百石、凡千噸余積ニ付用意致呉候様十四番より申来候処、休日ニ付飯田宅へ宮本差遣し、明日より御蔵ニ而壹日式千袋宛出来方御達申立置候事

一 横浜計算至急申付候ニ付、出納手伝トシテ松本事一兩日滞留之咎ヲ以出張為致候事

一 工部書記官長谷川ヲ訪、不逢

一 静寛院宮様御葬議ニ付諸官省休暇、養之助殿三井家名代トシテ増上寺ニ罷越事

九月十四日 夜大雨雷

一 浅草御蔵今日より袋詰初ル

一 長谷川工部書記官ニ相尋候処、千早丸来ル廿三四日頃横浜出帆致ニ付、今日最前之通指令可致候事

一 山尾太輔殿、長谷川とも明日より出立、釜石并石巻等へ出張相成候由、木村山尾氏へ行

一 サイノシユル并クレミス号輸出入費合金七百六拾四円三拾

五銭壹厘今日御下渡ニ付、出納局手形ヲ以銀行江廻ス宮本新右衛門浅草ニ而受取事

一 第八回輸出雇入船ハ益田帰浜之上本約定ヲ決スルコトニ致置ケリ、尤明後日曜并十七日新嘗祭兩日は休日ニ付、其内益田帰浜候ハ、十八日より日数相始候事ニ話置候

九月十五日 晴

一 昨夜第拾壹回着紺五号絨百九拾九反、此碼壹万式千三百四拾五碼五分今日陸軍へ引込、内□式万四千円取下ると申出置候事

一 上海プリ子ヨリ為換送り洋銀証書(十四番渡リ)式枚之内式千七百〇式弗七拾セント之分長崎支店金入用ニ付、同所銀行出張店ニ而引換、右代リ洋本行江三日間返納可致事ニ付約定之分右合洋之外ニ式千六百式十壹弗横浜ニ而買べ、横文手形と引換請取置候事

一 今夜十時気車ニ而益田帰東

九月十六日 休 日曜日

一 風帆須磨浦丸今日午後横浜出帆ニ付、石巻江電信セリ

九月十七日 新嘗祭休

*〔△〕

一 アンニーウエストーン号雇事件ニ付、益田十二時益田出浜

一 青森県下津軽郡五所積村代理安藤吉四郎義、県庁より添翰を以来店ニ付引合置、宿等不案内ニ付相頼候間、米七百石着次第世話致し候之段相答、宿差遣候事

*〔宿 董風楼〕

九月十八日

一 十一月限九拾枚買埋 五円廿銭 七十枚
拾九銭 式十枚

右兜町之分昨日取計候事

*〔差引〕

十一月 蛸百枚

5.280

同兜三百十枚

5.140' 5.040 □□

十月 蛸五十枚

5.280

九月 同百四十八枚

5.280

一 神戸より香港積米并小麦シンブソン請取書昨日到着候事

北国米五千六百四十四俵式千十三石六升式合五勺

英斤六十壹万五千七百八十壹斤式分五り

小麦八百七十袋 五百卅石七斗、十五万六千六百斤

一 青森県下依頼米七百石入着ニ付、遠藤儀代理安藤氏ト本船江請方として出張為致候事

一 第八回輸出来積入相始ニ付、宮本新右衛門出浜

一 第八回輸出欧州行運賃壹噸ニ付四拾七志半ニ而積入、横浜碇泊日曜日ヲ除キ今十八日より廿日間約定

一 グレームス、サイノシユル兩輸出来見本ニ依レハ、当時龍動直段十三志三片ニ而、尤彼ノ嗜好スル所トアルウインより電信セリ、今日届出置

*〔兜町限月〕

一 十一月限兜町買埋百拾枚 五円式十銭

一 蛸殻町十月限買埋三拾九枚

壹 五円十五銭 十壹——十八銭 五——式十銭
十——十七銭 式——十九銭

一同十月限買埋拾壹枚

三 五円十八銭 四——十九銭 四——式十銭

*〔九〕

一 九月限四枚買埋蛸殻町

壹 五円十五銭 壹——十六銭 壹——十七銭 壹——十九銭

一 仏博并支店開設用多端ニ付、午後四時より金山ヲ室町支店エ出勤申付候事

一 第拾壹回約定絨代金之内式万四千円陸軍より請取、直ニ三井銀行江入金ス

一 勝部元右衛門銅壳捌方依頼ニ付、島根県松江出張三井銀行

ニおゐて積付立会示談ニ付、夫々打合決議之次第銀行本店并大坂出張店へ申越ス

一 鹿児島県属官青江秀、中山(アキマ) 来訪

九月十九日 曇

一名古屋丸出帆ニ付長崎、上海、馬関、大坂へ出状セリ

一 旅費規則中改正増加昨日決議、支店・出張店へ送ル

一 石巻出張福永ヨリ第弍弍弥生丸へ石浜蔵入米七百七拾四俵、

此石三百弍拾石三斗九升弍合弍勺積出候段、十三日附ヲ以

申来候事

一 蛸殻町九月限買埋拾枚 五円弍十銭

一 長崎出張出納局江米渡方ニ付、請取証四枚来ル

47米弍百弍十弍石八斗七升 亥肥前 46米六拾八石八斗八升 亥肥前

同同百五拾三石 亥筑後 同同千弍拾五石壹斗 亥肥後

右出納江預ヶ置候事

一 千早丸再航海之節三千石ニ付千円之約定通願書江聞濟之指

令有之候事

一 蛸殻町十一月限百枚 八十枚 五円弍十弍銭

買埋 六十枚 一弍十弍銭
一 兜町十一月限百廿枚買埋 六十枚 一弍十弍銭

九月二十日 雨

* [10] 一 英一米引合并本船見分旁益田九時出浜

一 麻袋拾万枚至急電信注文致候様出納飯田殿より宮本へ達有之、直ニ益田へ電信セリ、尤内地右品ニ而も買入可然との事ニ有之

* [15] 300 三半

45 300 一

一 香港ヨリ送り来ル滑草見本計算表とも伊勢勝江為持候事

一 麻袋拾万枚電信を以カリカタ江注文申越候事

九月廿一日

一 蛸殻町九月限三枚買埋 五円弍十六銭

一 去十二月約定絨之内延着之願書十四番之横文相添、陸軍省へ差出候事

一 麻袋直段壹ツニ付壹錢ヨリ壹錢五りも上直ニ可有之趣ニ而、

口上を以飯田へ宮本より申入ル

一 兜町九月限買付百枚 五十枚 五円弍十八銭

本 五十枚 一弍十九銭

一 午後益田、木村室町并伊勢半行

九月廿二日 晴

一 福岡県属官

一 勝部本右衛門出銅山本調査并船積之節立会等致呉候様依頼

書請取、尤出銅有無ニ不拘当十二月三十一日限皆済之筈ニ約ス 書類出納へ渡候、依而島根出張銀行江代理依頼ヲ本行へ談ス

九月廿三日 休 晴

一 明日出納局へ可罷出旨ニ付、為手廻今朝飯田殿へ行キ、大坂ワットソン渡皆済報知之事ヲ通ス

一 飯田殿より達シニ、東京即今第八回輸出之アト七八千石引続輸出致度ニ付、麻袋都合次第船雇入可致、尚又馬関ニおゐて陸軍渡其外残米ニ而八千石程堅米有之分ヲ輸出致度、此分ハ過日船雇方申付置候歟ニ付、麻袋不足ハ大坂より廻スコトニ致スヘシ、其アト筑前若松辺ニ七八千石計残米有之ニ付、来月中頃迄ニハ不殘馬関江三菱引負を以廻漕可致筈ニ付、同所着ノ上は協同社明キ庫有之時ハ直ニ入庫可致、無左而は他之借庫ニ而も当社江貢米回漕規則を以請取置、此米ヲ麻袋之手ニ入候順ヲ以不殘輸出致可申ニ付、即今東京之分とも、都合第八回より以下拾壺回迄四艘之義丸ニ委任スルニ付、切角心配可致候様との事ヲ達シタリ

一 神戸ニ而当社買入米北国五千石ヲ香港ニ輸送スル船入着之由、拜司より申越ス

一 田辺依頼上海送り鉄昨日神戸江積戻置候段申来ニ付、三拾貳番へ預り置可然申付候

九月廿四日 晴

一 当月より已来大蔵省御買米六月迄精算分手数料壺石ニ付五錢宛之分御払下して出納局へ申出ル

一 益田氏品川江転居今日当病、中山来訪

一 九州産広形紙祿印之分壺枚、見本直積之為メ山口県大書記官木梨真一殿へ渡ス

*〔注、鉛筆にて欄外に丸印あり〕

一 午前宮本事出納局へ呼出ニ而、筑前若松、カフリ両所に馬関迄船運賃百石ニ付何程候哉聞合呉候様依頼有之事

一 三井銀行江島根県下勝部事件打合書類差廻置

一 十一月限兜町売百枚 六枚 五円〇三錢、式十五枚——〇壺錢 六十九枚——〇式錢

九月廿五日 雨

一 一条約第九回殘金三千式百九拾五円〇式錢五厘之辻、本日御下渡相成候事

一 ダブソン号香港積米式枚四分四リニ売却済、小麦は末相払由申来候事 神戸積ナリ

一 過ル廿日御注文麻袋拾万枚、此節欧州米価沸騰ニ付輸出増殖ニ付高直、則壺枚十九錢乃至式十錢迄位ナラテハ横濱着不致段甲谷他ヨリ返報ニ付、即刻上申セリ

一 筑前若松・カフリ両所より馬関江船賃取調之義出納局へ可
差出分、馬関より返事無二付、不取敢博多より壱石二付拾
式錢相掛候儀申立置候事

一 井田口四日市より回米之内宝昌丸積式百四拾俵分、過ル十
七日大風ニ而遠州沖ニ而難船ニ及び、漸伊豆国甲浦ト申処
へ吹附ラレ、尤皆潰ト申迄ニも無之段届出候事

九月廿六日

一 第六回輸出ダフン号積海上危険料并船雇入ニ付、電信料と
も出納局へ御下渡之義申出ル

一 広島丸出港ニ付、上海、大坂、馬関江出状セリ

但此便を以ブリ子石当り証券式枚十四番裏書ヲ取送り致
ス

一 麻袋上海ニ而拾四錢九厘ト申来候間、買入可然返報セリ

一 英一番館より番頭ヲ差越し、昨日差遣シタル三陸米見本之
品四千五百俵横浜船渡百斤ニ付洋式弗壹分ニ而買受ケ度申
聞ルニ付承知、明日、明後日の内ニ積出スベキ旨相答ヘタ
リ

一 馬関陸軍渡米七千石之内、六千式十八石八斗四升六合四勺、
六百式十壺石壺斗九升九合三勺、兩通陸軍受取書出納へ上
納、代リトシテ飯田殿受取書下渡相成、出納へ渡ス

九月廿七日

一 十一月限三拾枚兜町買埋 午前 四円九十錢
一 兜町十一月限百枚売附 引渡

三十枚 四円八十九錢 七十枚 一十八八錢
一 英一より依頼米四千五百俵之内、左之通買付

本穀米六百俵 式斗七升 米又

同 式百四十俵 式斗壹升 同

同 三十三俵 式斗〇七合

同 百八十俵 同 同

同 六百俵 式斗〇六合 陸七

同 式百俵 同 同

メ千八百五十三俵 五斗入

本穀米 三百九拾四俵 五斗入 持分

南部 六百七拾俵 四斗入 同

メ千六〇六拾四俵

津輕米 千五百九拾俵 式斗壹升
三八入 米又

惣メ四千五百七俵

右買附等相決明朝迄積切手配致事

*[筑前加布利運賃上申]

一 筑前国加布利港ヨリ馬関江米運賃壱石ニ付馬関へ雇船ヲシ
テ式拾三錢ヨリ五錢迄之由申来候間、直ニ出納局ニ電信セ
リ

一カラバ。條野。原六郎来訪

一紙幣局出来紙類一見トシテ益田正午より大藏省へ罷出候事

九月廿八日 曇北風

*〔△〕

一英一米件并仏国郵船引合旁益田出浜

一石巻ヨリ須磨浦丸廿一日着之由申来候事

一今午前陸軍ヨリ呼出シ、当六月約定毛布五万枚初船龍動何

月何日頃発船スルヤ、且何千枚積出スカ、尚又アト順々何

月頃迄積出スカ、益田より申入ニ而は龍動之出来合壹万余

も有之趣ニ而、染テ速ニ入着可致由も申入候事も有之旁多

分入費ヲ不掛、電信ヲ以掛合呉候様との義伊東軍吏より達

シ木村承ル、直ニ益田横浜ニ出張ニ付申越セリ

一第三回支那輸出フルルカツスル号諸費殘金八百式十式円

六拾三錢御下渡可相成内、第式回同ワイキン号諸費下渡過

金百七拾五円式拾錢七厘ヲ引殘リ、養之助出局、大藏省ヨ

リ現金請取候事

一絨第拾式回着六拾箇今夜鉄道より送ル、明日より引籠答

一生糸式個新井系作より佐藤送り之分十四番江インヲウイス

差出方依頼致候由、横浜支店より来ル

九月廿九日 晴

一昨夜午後三時頃小賊忍入之処、当直高野幸八是ヲ見付、林

蔵ヲ起ス時ニ裏口より逃走ス、一品も失品ナシ

一香港輸出米神戸より北国米五千石積入船雇風帆船運賃百斤

ニ付式拾五錢宛ニ而決定ニ付、早々積入十四番乗合ニシテ

積送り之筈ニ付、三十式番申談、不足ナレハ買足可積入段、

拜司へ昨夕電信ス

*〔仏国郵船会社約定〕

一昨日益田出浜、中山同行ニ而仏国郵船会社江罷越、当度可

差送荷物運賃ヲ壹船積ニ付三拾噸已上ナレハ式拾弗宛、其

已下ナレハ式拾式弗宛ニ而何時可積送段約定セリ

一中山・成島・矢野来訪午前、カラバ同正午

一昨日渋沢氏来訪、過日大藏省ニ願置候上海出店江銀貨・旧

銅貨為交換御下渡之義願書之指令一昨日相成候処、銀貨五

千円、旧銅貨壹厘之分五千円壹円ニ付千枚、合金壹万円三ヶ月

間貸下候條、受取方上海領事官江可申出、尤右証書ハ国債

局長へ宛相認メ、当地ニおゐて可差出段指令有之、右当方

願面ニは壹厘旧銅貨五千円壹円ニ付千枚五拾枚ノ見積）申出候処、甚相

違ニ付如何哉と申来候間、益田より返事可致答

一昨ノ関積輸出米第七回サマンサ号積切壹万四千五百袋也馬

関用済ニ付、進退返事ヲ伺ノ為田中ヨリ来報ニ付、請取書

取付大坂へ引取候様返事セリ

一アト下ノ関輸出米之為外国風帆船雇入約定セリ、尤壹万

式千石余積之由、然ルニ馬関當時有米八千石計也、依而入
船至急ナレハ四千石買米可致事ニ大蔵へ申立可致、壹噸ニ
付四拾七志半之由

一 麻袋拾万枚加谷他ニ而先直段位ニ買付候由、来報有之候事
一 龍動へ毛布云々電信今日正午出ス、序ニ□□ハ当社へ直ニ
可積送段アルウイン江申越ス

一 昨日日落

蛸殻町九月限買埋三拾貳枚 五円十五銭

兜町十一月限売附三十枚

拾枚 四円九十銭 十枚 —— 九十銭 —— 九十銭

一 午後六時前田正名ヨリ明日三田開業ニ付蚕種紙両三枚、生
糸貳三把□小把、心配為持呉候様申来候ニ付、即刻事情横
濱へ差遣し、左之廉々十時気車ニ而取寄せ、直ニ育種場へ
為持候事

生糸下仁田 貳把 五斤ニ而五百十弗

安中同 貳把 四百八十弗

八王子同 貳把 四百三十弗

掛田同折返 三把 六百八十五弗

蚕種紙 武州 壹枚 八十五銭

同 羽前 壹枚 七十五銭

同 岩代 壹枚 壹円

右之直段付を以浜より送り来、前田へ書付渡ス

九月三十日 晴 休

一 三田育種場開業ニ付、正幹并室町不残罷越ス

一 兜町商社新築開業式ニ付、名代宮本出張、稲荷社祭礼ニ付

酒壹樽寄進セリ

*[金子二十九日若津着]

一 昨日金子弥一若津着之来報セリ

一 三菱風帆須磨の浦丸廿九日石巻竹ノ浦出帆之由、同社より

開報セリ

十月一日 晴

一 今朝田中、遠藤七時ヨリ出浜、宮本八時十五分出浜、津輕

米印附手配其外之為ナリ

一 国重・佐々木昌也・矢野・中山来訪

一 長崎グリブルトガラスト同行来訪

一 新井庄兵衛事取立掛為省費、且近来不勤勝ナレとも別段差

障無之ニ付、三井組大元方ト申談、三野村今日返事済ニ而

差免候段田中彦七を以代聞ニ而申付タリ

一 第十式回絨税金并絨代金之内トシテ洋三千百弗之辻十四番

受取証書差送候分藤渡し

十月二日 晴

*〔齋藤宿〕

一 齋藤定興來訪、宿小伝馬町式丁目山田屋又兵衛方

一 米国風帆第八回欧国輸出米昨日積切候事

一 勝部本右衛門既銅大坂廻しニ付、雲州地方ニ而調査方等当社委任状ヲ以、該地出張三井銀行藤木久三郎江当ル分并手続書共本行江相廻セリ

一 第八回輸出アンニウエストン号積壹万式千五百拾壹袋ニ而積切ニ相成候段、ヒツセル來話ニ御座候

一 横浜支店根岸半次郎事、内国博覧会審査席へ罷出候様、尤生糸審査掛へ今明日両日中ニ罷越手續承候様長官前島密ヨリ達有之、直ニ横浜へ申越タリ

一 昨夕遠藤來店、品川土地五千之上少々付候様相談請候間早々返答承度との事

一 フイセル・岡本健三郎・中山(ヲキマ) 來訪

一 第拾回着約定絨残洋三千五百六拾三元三拾貳錢八厘之辻陸軍より下ル

十月三日 晴

一 上海ヨリ電信ニ、麻袋壹万枚大坂、壹万千五百枚下ノ関江昨日出帆名古屋丸便を以積出候事

一 勝部本右衛門貸金元利之内へ金貳千百五拾円、島根県出張

三井銀行為換ヲ以差送候事

一 筑前国加布利より米輸送方当社へ引受與度出納局より談有之候処、別段出張為致候等之義ニ而取扱兼候ニ付、御断可申出決議

一 大坂御買揚米代金之内拾万円之辻、九月廿七日電信為換を以大坂出張出納局ニ而請取置分、証書更ニ御下渡相成候而(第貳百七十四号ナリ)、明日飛脚船便を以拜司へ差送、出納江差出、同人より差出置候仮書ト引換可致分、并七月三十日同断之分、未夕引換不相成哉ニ付、催促共申越ス

一 筑前若松加布利より三菱請合廻米壹万四千石之辻、馬関受取方指令書写明日船便ヲ以秋本へ送ル

一 上海ニ而銀貨、旧銅貨渡指令書へ増加ノ廉有之ニ付、明朝可差出との由を以、第壹銀行脇田氏取ニ來候間相渡ス忠蔵

一 十月限百枚兜町売付

七十壹枚 四円九十貳錢、貳拾八枚——九十壹錢 壹枚——九十錢

一同貳拾枚売附

壹枚 四円九十三錢、九枚——九十貳錢、十枚——九十一錢

一 仏国博覧会出品其外願書三綴、願書出品嵩八拾五噸輸送及出品依托引請取扱人并職工共都合六名渡航之義聞届、指令書今日下渡相成候事

一 〇

十月初四

一出納局ヘタイタン号雇入之届書ヲ出ス

一小麦三千石三円三十四銭位にて買入ラルベキ旨申立シニ、即ち買入方申付ラル

一下ノ関ニ而輸出来三、四千石不足之分は、筑前より急速運送ナラサレハ買入レ而もよし、いつれ取調ベル筈

一横浜へ着シタル高千穂丸ニ而残米千式三百俵アリ、此分早速明朝横浜石庫へ陸揚ケル事、当社江被命タリ

一下ノ関、四日市米相場書電信之趣出納局へ届ル一兼而横浜より注文ノ紙着セリ

一仏支店章程等坪内安久ニ相渡ス
一倫敦ヨリ送り来ル西洋紙価左ニ

第壹号 壺リームニ付 洋式弗七分六厘三七

第貳号 同 同五弗五分式厘七四

第三号 同 同三弗〇四厘九六

第四号 同 同四弗九分五厘五六

一 蛸殻町十月限六拾六枚売附

五枚 四円八十六銭 十枚 八十四銭
五枚 八十五銭 廿枚 八十三銭 十三枚 八十銭

一同所十月限拾貳枚売附

貳枚 四円八十銭 五枚 八十銭 五枚 八十銭

*「改

蛸殻町十月限 780」

一 兜町十月限貳拾七枚売附

七枚 四円八十銭 十七枚 八拾零銭 三枚 八十銭

一同十月附拾五枚売附

十枚 四円八十銭 十四枚 八十銭

*「兜町十月限 1720」

一 勝部本右衛門荒銅大坂着之義同地出張人野坂ヨリ電信セリト、当所出張人より届来ル

十月五日

一 臨時黃絨第四号絨代共式千〇六拾四円五拾三銭式厘之辻陸軍省より下ル

一 兜町十一月限百六拾四枚買埋

拾枚 四円六拾八銭 百五拾零枚 六十五銭 三枚 七十銭

一同七拾零枚買埋

六拾零枚 四円七拾三銭 十枚 七拾四銭

*「埋切」

一 ハラ新穀買入方今日より相始ニ付、米又江立川出張買取方申付ル、尤米主より口銭不申請分ニ限り、百俵ニ付式十銭

宛口銭立遣候筈

一 上海より馬関送り麻袋壺万枚ニ而は引足不申ニ付、八千五

百枚必ス広島丸ニ而同地へ可差送段電報明日掛候筈

一 出納局ヨリ達書来ル、右は馬関ニ有之陸軍運輸局ニ有之黒米三千八百石、白米千貳百石当杜へ預ケ方致候、最前渡方之節同様之手続ヲ以受米可致との事ニ付、即刻電信郵便セリ

一 今午後前田暇乞トシテ雉子橋江被招候付、益田、三野村出席致候事

十月六日 晴

一 馬関御買入北国米精算勘定書貳万四千四石五斗五升貳合六勺之辻、精算書出納局へ差出ス

一 兜町十二月限買附九十枚、〇

五拾五枚 四円七拾銭 三拾五枚——七十壹銭

一 同三拾枚、〇

貳拾五枚——七十壹銭 五枚——七十貳銭

*「十二月限兜始り 百貳十枚」

× 蛸殻町十二月限買付百枚

十枚——六十八銭 三拾枚——六十九銭 六拾枚——七十銭

*「蛸殻 百枚」

一 昨日新米買入高千四百〇四俵米又之手より買入候事

一 大坂、馬関、東京ニ於而新米買取之義、昨日益田へ出納局長与倉より申附候趣を以、四日市、若津共早速着手致候様

出張人江可申越段、同人より木村へ達し

一 大坂出納局納四万貳千石余ニ相成候分、八百石余増受方間濟、直ニ大坂出張局へ電信相成候事

一 小麦三千石代之内壹万円、并当春より六月迄手数料七千円余、今日大蔵省より受取事

一 兜町十二月限買附百枚、〇

五枚 四円七十七銭 七十五枚——七十八銭 廿枚——七十九銭

*「兜町×高 20」

十月七日 休

一 大蔵省より御申付ニ付、石巻、四日市等新穀直段聞合、電信出セリ

一 今日売茶亭ニ而前田別盃ニ付、三井銀行ヨリ出水并三野村、

今井、西村、当社両会主、益田、木村、馬越、伊達、坪内、

近藤、中島、浅田共集会、別席ニ而出水、其外江前後之手

続益田より演説□□□酒飯差出候事

十月八日 晴

一 十月限蛸殻町買埋貳拾壹枚

五枚 四円九十五銭 十六枚——九十六銭

一 兜町十月限買埋拾五枚

- 十枚 四円九十七銭
一枚 九十八銭
一枚 五円 九十九銭
- 一 出納局江呼出、木村出局候処与倉より前日買入米計算凡書取を以、翌日十時迄ニ必ス差出様頼候事
- 一新穀買入米代拾万円下渡願申出ル

*「△」

- 一 仏国郵船出帆ニ付前田出立、坪内同行、午後二時三十分益田、三野村浜行、武之助殿木村ト六時十五分出車を以罷越、益田一泊、余八十時九分ニ而帰東候事

*「前田、坪内九日午後三時横浜出帆セリ」

十月九日 曇

- 一 今日益田品川宅ニ而紅茶試製ニ付、松方殿も出席相成候由ニ而、益田出勤不致候事
- 一 甲府銀行栗原信近より益田・木村へ葡萄乾函宛差被贈候事
- 一 兜町十月限四枚買埋
一枚 四十九五銭 一枚 九十六銭 一枚 九十八銭
- 一 蛸殻町十月限五拾七枚買埋
拾枚 九十七銭 貳拾枚 九十八銭 貳拾枚 九十九銭
七枚 五円
- *「埋切」
- 一 兵庫、大坂買入米貳万石勘定、本日出納局へ差出候事
- 一新穀代金之内トシテ金四万円(東京四日市)現金ヲ以、外ニ貳万

- 円長崎出納局渡証書(若津)、四万円(大坂馬関)合拾万円本日御下渡相成候事
- 一 第十回欧州輸出来積入雇米国風帆タイタン号、長崎より馬関へ入港免状本日下ル

十月十日 雨

- 一 西京丸出帆ニ付左之通取計候事
一金四万円(大坂馬関)新米代金之内出納局より受取方可致、証書式通を以書留ニ而拜司へ送ル
- 一 同貳万円若津同断壹枚を以羽太へ送ル
- 一 タイタン号免状壹通羽太江同断
- 一 秋本・金子并上海へ出状セリ
- 一 出納局長与倉殿より石巻港新米買入着手致し、他之手ニ不落入様注意可致段内達有之、直ニ福永へ電報セリ
- 一 兜町十月限買埋八拾貳枚
四十七枚 四円九十五銭 三十三枚 九十六銭 一枚 九十七銭
- 一 同壹枚買埋 四円九十七銭
- *「兜町残り 十月限 70」(注、跨線の上に欄外書されている)
- *「七十枚」
- 一 四日市へ買米着手ノ事電信ス
- 一 洋紙四号三十リームヲ報知江売ル

十月十一日

一 兜町十二月限百枚 若留 買附○

五十三枚 四円七十五銭、四十七枚 四円七十六銭

一 青森県下桂井吉郎右衛門代理安藤吉五郎持登米七百石、仕切之上今日帰県ニ付、県序第弐課并桂井、銀行田中九右衛門江返翰相渡候事

一 福島県官小山政蔵其外江、為談合益田午後上野行

一 兜町十二月限三百三拾枚買附 東印 米又○

百六十五枚 四円七十六銭 百六十五枚——七十七銭

一 同百〇九枚買附 又印 米又○

六十枚 四円七十五銭 三拾枚——七十六銭 十九枚 七十七銭

一 同六拾壹枚買附 又印 米又○

十枚 四円七十四銭 十枚——七十五銭 四十一枚——七十六銭

*「蛭殻町十二月限 米百枚

兜町 十二月限 買 米八百廿枚
合九百貳拾枚」

一 銀行ヨリ尾高氏来訪ニ而出發近日出荷相成ニ付、如何様取計可然哉との事ニ付、越前堀出店へ直ニ船送り相成度申入置候事

一 大風波ニ而深川諸蔵へ手当トシテ夕方宮本其外出張、今夜

詰番申付候事

十月十二日 晴

一 蛭殻町十二月限買付百枚

拾枚 四円七十七銭 廿枚 ——七十八銭

五十枚——七十九銭 貳拾枚 ——八十銭

一 兜町十二月限買付六拾枚 東○

十枚 四円七十九銭 五十枚 ——八十銭

一 同三拾枚買付、三拾枚 東○

十枚 四円七十九銭 廿枚 ——八十銭

*「兜十二月 九百十枚

蛭同 貳百枚」

一 蛭殻町十二月限四拾枚買 米又

十枚 四円七十九銭 三拾枚 ——八十銭

一 同百六拾枚買

五枚 四円七十八銭 貳十五枚 ——七十九銭

百卅枚——八十銭

一 兵庫ニ而買入候米は兵庫へ差置可然段、与倉殿より申付有之候事

一 開拓使乘風丸石炭代千九十九弗余本日同使林ヲ以上納セリ
一 国債局より借入之拾万九千八百円之内、五万円は先日納済、残り金本日三井銀行へ相廻、上納方依頼致候事

*「兜町一 若留十二月限貳百枚買 四円八十三銭○

*「同」
一米又二而本場十二月限式百九拾五枚 (マ) 八十二錢 百四十五
八十三 七十四
八十四 ○

*「同」
一同 アト同 百九拾五枚 二百卅五 八十三錢
五十八 八十四

*「宛」
×「一万九百八十五」
右二而惣計買式千枚之買

*「×千六百枚」

一アニーウエストン并サマンサ船積証書各一通ツ、ヲ南領事
江出ス、但シ書状はアルウインに托ス

一齋藤定興之代木下来り、南部ニ新米千石式円五十錢に而売
物有之、買取方如何哉ヲ尋出タリ、尔来は都而石の巻江出
し而金と引換へニ致度、委細明朝齋藤ト相談の上挨拶有之
筈

一深川大潮ニ付木村宅破損故、本日本挽町へ転宿候事

十月十三日 晴

一 蛸殻町十二月限三拾枚買付

五枚 四円八十七錢 五枚 —— 八十八錢
十枚 —— 八十九錢 十枚 —— 九十錢

*「蛸殻十二月」

×「四百卅枚」

*「右帳入済」

一兵庫買入米第壹号、若津第貳号出納局へ届出候事

一 兜町十二月限買附百四拾枚

七十枚 四円九十式錢 七拾枚 —— 九十三錢

一同百枚買附

五十枚 —— 九拾式錢 五十枚 —— 九十三錢

一 蛸殻町十二月限百四拾枚買付

四十枚 四円九十式錢 百枚 —— 九十七式錢

一 蛸殻町十二月限式百六拾枚買付

十枚 四円八十九錢 百枚 —— 九十錢

百枚 —— 九十式錢 五十枚 —— 九十七式錢

一兵庫より香港輸出来壹万五千七百拾五俵、此斤百式拾八万
五千八百六拾式斤積入、ヒリブラキツハトルツク号江渡方
致し、十四番組合より受取証書并税関免状共拜司より送り
来ル

*「盛岡米三斗五升

式俵 壹駄

手数料五錢」

十月十四日 休

一 昨日高砂丸龍動無事着電信有之事

十月十五日 曇

一 島方木村忠藏当分蚕種紙取扱手伝トシテ、横浜支店へ今日より差越候事

一 中島新三室町支店用相片付、本日より米方出勤申付候事

一 古谷龍藏四日市買米用トシテ明朝より出立、陸路三州地へ立寄、直ニ出張之筈

一 蛸殻町十二月限六拾枚買付 本 四円九十九銭

一同 拾枚 貳番 四円九十九銭

*「メ」

*「キ 2738」

十月十六日 雨

*「△」
一 十四番江用向有之、益田横浜行

一 古谷龍藏出立四日市行ニ付、金壹万円ノ内半分を以為持差越候事

一 正米高直ニ付、今日一日買入方見合候事

十月十七日 晴

一 室町支店江産物一見として東京府知事来店相成候事

*「今日止メ」

一 三陸米五十石始而買附報告ニ付上申、并ニ金貳万円請取方

申出ル

一 名古屋丸出帆ニ付、長崎、馬関、大坂等江出状セリ

一 品川江益田氏引越候事

十月十八日

一 瓦斯局売石炭六百拾五噸、壹噸ニ付七円七拾貳錢替、野村竹次郎より書付差越置候事

一 東京府知事午後四時より室町支店へ来車、物品□覽、薄暮引取候事

一 ワツトソン方麻袋七千五百枚買入、受取代金165之事ニ中原来店之上相決候事

一 レウ一件電信料立替之分取下と国債局へ申出候事

十月十九日 雨

一 渋沢口出穀式箇□目十五貫目尾張屋幸五郎荷之分本莊駅諸井泉衛より昨夕刻島方へ持付候間、手置申付候事

一 サマンサ并アンニーウエストーン号見本米十四番へ為持候事
一 豊前小倉人堤半藏・柏木點治・久良知重敏等ヨリ先日米豊

前米取組方談判之末馬関秋本へい細書面差出、実地之勘考并打合等ニ付、其書面趣意相違無之哉否為念堤藏蔵へ今日見せ候上、郵便差出ス

一 エニーウエストーン土州沖ニ而難風ニ出逢、余程の荷打チヲ

モ爲し、辛クシ而横濱江着したり、委細取扱は拾四番江委
托セリ

十月廿日

一 郷殿より之呼出しニ寄り而孝出省ス、其談ニは三菱商会ニ
而は損失無キトキハ蒸氣船ヲ欧州江送ルベシ、至急取調運
賃高ヲ申出へし、一石ニ付弍円五十錢もアレハ可然との事
序ニ出納局へ回ル、アニーウエストン一条ヲ巨細ニ話し置
ケリ

一 小倉旧知事在英ニ而為替入用との事故、洋千弗受取、アル
ウイン江六十日目渡の手形ヲ以三志拾壹片弍分五り換ニ而
百九拾六磅拾七志六ヘンス之高ヲ取組ミタリ

十月廿一日 休

十月廿二日

一 アンニーウエストン号難船景況届書出納局へ差出候事
一 第十三回約定絨代内金三万三千円迄取下方申出候事
一 渋沢市郎殿より送り方之出穀麻袋入三十八本、此量目弍百
三拾貫弍百目送り状前ニ而当方掛改、弍百弍拾六貫九百五
拾目有之、欠切三貫五百弍十目有之ニ付、運賃三円八拾錢
小網町迄下
有之、武州新川内国通運会社印 弘渡見合置、追而荷主掛合之上

可相払と申答置候、此外早舟舸下賃九十五錢(浅草山ノ宿荒川印)
有之、申請度申立候へとも、小網町迄の運賃ニ而弍重払も
難計ニ付、是又断置候事

一 ヒツセル来訪

十月廿三日

一 齋藤定興、木下とも兩人へ万仙ニおゐて酒飯差出、奥州之
事件談合致候事
一

十月廿四日

一金三万三千円第十三回約定絨代之内トシテ第弍課ヨリ受取
一金三万円東京買入米代之内トして大蔵省ヨリ受取候事
一 南一介来社、宮辺事件落着ニ付片山へ取掛之段申来候事
一 渋沢依頼出穀三拾九本越前堀より、四十八本当蔵ヨリ鉄道へ
送り横濱へ差向候事
一 金杉瓦斯局石炭代四千七百四拾七円八拾錢受取候事

十月廿五日

一 広島丸入着上田安三郎帰店、ヒットマン同断
一 広島丸出港ニ付馬関江出状ス
一 約定絨代洋之内へ金弍万円横濱支店送り

一 渋沢市郎来店、出穀欠減等之義打合候処、別段不正之筋発覚セサレハ致方無之二付、運賃払相成度依頼有之候事

一 ヒットマンより太政官上申書尅通横浜より頼越候処、遅刻ニ而明日差出ス

十月廿六日

一 出納局長与倉殿、長崎・馬関・若津・四日市等蔵所見分有之二付出張、来ル三十一日出帆東京丸ニ而発立ニ付、馬関其外案内方依頼方、夫々申越候事

十月廿七日

一金貳万円大坂新米買入金之内トシテ、并六千円余共出納局より請取候事

* [6046.6:31

十月廿八日 日曜日

一 ヒットマン同行、益田雉子橋ニ抵ル

十月廿九日

一 第二号紺、第四号甲六緋黄藍絨欧州注文電信ヲ以申遣ス、且今夕の郵便ニ委敷書帖出ス

一 田中長右衛門近在より帰京ス

〔表紙〕 明治十年十月廿九日ヨリ

日記 ④

同十一年二月廿七日ニ至ル

第四号 「(三井文庫所蔵史料 物産四)

十月廿九日 晴 月曜日

一陸軍省第貳課約定絨類左之通、本日龍動へ電信ヲ以注文申越ス

貳号紺絨七千六百七拾碼

四号同五千四百碼

甲六号同壹万八千碼

三号 紺絨千碼

藍絨百碼

黄絨千五百場

右電信之上英国メール (ラキマモ) 号ヲ以郵便書ヲ出ス

*〔宛十二限売埋〕

一兜町十二月限百五拾六枚売埋 本 又印之内

六拾六 五円拾貳銭 九十 五円拾壹銭

*〔同上〕

一 同限八拾四枚売埋 貳番 又印之内

三拾四 五円拾壹銭 五十 五円拾銭

一三野村来社、龍動井上より来書ヲ渡ス

一矢野、中原国之助、中山来社

一 千早丸釜石江向ケ昨廿八日出帆之段、鉾山局ヨリ通知有之
二付、石巻江出状ス

十月卅日 晴 火曜日

本△

一 英壹并拾四番アンニールウエストン事件等二付、午前益田、田中長右衛門横浜出張

*〔宛十二限買付 入帳済〕

④ 一 兜町十二月限 三拾枚 五円八銭

七拾枚 五十枚 七銭
貳十枚 八銭

百枚 買付

一 工学界より注文ノ石膏三拾六担、上海ブリ子江買付方申遣ス

一 英一番ニ而申聞ノ米三陸米ハラ江申立シ処、下廉ニ付到底不被行其趣断リ遣ス

一 大坂梓司江電信ヲ以竹内恒三四日市江出張之事申遣ス

一 長崎江石炭当時売口悪しく積回スコト勿レ、増田幸七呼寄せの事申遣ス

一七宝会社巴里斯行之荷物ワットソン雇入之帆前船ニ積入方

三拾頓約束ス

但し運賃は神戸より龍動迄貳磅

神戸迄の運賃は此方ニ於而受持之約束

一東洋銀行江七月三日注文絨毛布代払方ハ三井銀行分店ヲ頼み而払入レ置キ、追而銀行トノ差引ニ相立拾四番の手ヲ経

サルコトニ内々示談ロツセルといたし候事

二重ニ付消 (注、左の二項にかかる)

一兜町十二月限七拾枚買附 本 東印分

五拾枚 五円〇七銭 貳拾枚 五円〇八銭

一同限三拾枚買附 貳番 東印分

五円〇八銭

一御買入米手数料第貳回分貳千五百四拾四円拾六銭七厘出納局ヨリ受取事

十月三十一日 曇 水曜日

一出納局副長与倉守人殿御用ニ付長崎行

一東京丸出帆ニ付若津、馬関、大坂ニ出状セリ

*△

一益田横浜へ米用ニ而罷越ス

一馬関輸出来積風帆サマンサ号免状大蔵省へ返上ス

一約定絨三拾五箱、毛布貳拾九箇昨日汽車ニ而着ス、陸軍江

引込候事

一午後五時ヨリ於精養軒渋沢、益田、木村、上田ト会食、上

海江第壹銀行合併出店事件ヲ談シ、全く合併出店決議、来

ル七日出帆西京丸ニ而上田上海ニ帰ル節、銀行ヨリモ尅名

出張之筈、此席へ中島も明日出立事件引合旁陪食ス

十一月一日 雨 木曜日

一四日市送り金貳万円明日出帆千年丸便ヲ以現送スル筈ニ而、

出納局へ書面差出し正金取下ル、七拾銀行運輸掛リ飯島松

五郎ヲ雇遣ス

一中島新三奥州出立、宮城銀行并福永へ出状セリ

一陸軍約定請書江秩禄公債証書六千百円之辻相添、今日差出

候事

一約定緘入箱尅ケニ付十尅錢五厘ヲ五分増シ十貳錢尅厘トク
ン尅箱ニ付尅円三拾貳錢五リヲ五分増尅円三拾九錢尅厘宛
ヲ以爾後買受度、第貳課へ申出候事

* (宛一月限買初)

① 一月限兜町千石買附 五百十三銭 若留

② 同限貳百拾枚同断 東廻し 米又

拾枚 一十銭 百六拾枚 一十三銭 四拾枚 一十四銭

③ 同限拾枚買附 東廻し 米又

五枚 五円拾貳錢 五枚 —— 十三錢

④ 一同限拾枚買附 東廻し 米又

五枚 五円十壹錢 五枚 —— 拾貳錢

一 匏貝壹万斤 大貳步方 中三步方 小四步方

破レ壹步 合五百斤ニ付八十錢買附之事

一 糸平より十二月限千五百枚売買戻し五円十錢ニ而頻ニ頼み

出而タレ共、不承知之事答へ置ク

一

十一月二日 晴 金曜日

一 ヒットマン来社シ、メードメリエン号三百頓丈ケ石炭積込

呉度旨願望スルニ付、式弗五分之約条ニ而雇船スルコトニ

取極メ、其旨長崎へ申遣ス

一 毛布追々納メ都合よしと

一 龍動より去月廿九日以電報注文せし陸軍絨式号紺七拾九片、

四号六十八片、甲六号七拾壹片、黄緋藍共に六拾三片ニ而

約定せし趣申越セリ

一 横浜ノウアルス(亜米一)来社、神戸ニ於而新米買入度趣

申聞ケタリ、抛而百斤式弗壹分ナレハ売却スヘシト答へ、

品之品等ヲ鑿定スル為メ拜司神戸へ出張為致、ウアルスニ

而相見ル積リ約束し而大坂江電信、其高六百頓ト云フ

一 陸軍省上箱不残売下相成候事

一 四日市行蒸氣千年丸俄ニ小笠原島行、代り東海丸今日出帆、

飯島乗組罷越事

一 白米五百俵上海へ送り試之義出納局へ申出候処、聞届相成

候段、飯田書記官殿より達相成

一 銅見本香港送り之分下大坂ニ而早々下渡之義国債局へ書面

差出候処、早速指令可致との事

一 四日市麻袋壹万貳千袋、今日より三菱龍応丸江積入差送ル

筈、尤品川ニ而積入方同社より依頼ニ付入費ハ申請候筈、

運賃も可然との事ニ付追而可取極事宮本引合

十一月三日 天長節ニ付休 晴 土曜日

一 上海より麻袋百五拾五箇、数四万八千百枚入着

一 今年後八時頃ヨリ延遠館ニ於テ、外国公使并外務卿引請ニ

而、天長節賀会開設ニ付、益田も出席致候事

十一月四日 晴 日曜日

十一月五日 雨 月曜日

一 今晝呉服橋内陸軍長処焼失

一 東海丸送り金貳万円四日市ニ昨日無事着ス

④ 一兜町十二月限買附百枚 ① 初

五枚 五円廿四銭 八十五枚——廿五銭 拾枚——廿五銭五り

④ 一同一月限買附百枚 ①

八十枚——廿三銭 拾枚——廿四銭 拾枚——廿三銭五り

一 欧州・米国荷為換金取扱方命令状、本日大蔵省より御下渡相成益田

一出納局ニ而白米販売見込之事

伺書ハ以来都而二通ヲ差出し可申事

長崎ニ而土蔵用意アルコト、石ノ巻米之事等夫々飯田殿と

談話ス

一 小松彰と云フ人来り、信州莫之談アリ

一 ヒットマン来社ス

十一月六日 曇 火曜日

一 大坂買入米代金之内三万円出納局より受取、三井銀行へ入ル、是ニ而都合七万円也

一同断之アト買入代五万円、若津同三万円下渡願今日差出候事

一 上海買入麻袋三万五百枚并五万^(七カ)千六百枚、平均代壹枚ニ付拾八銭式厘宛取下方願書差出ス 出納局

一金壹万円横浜支店江送ル、田中長右衛門持参

一 アンニーウエストン号痛ミ米今午後二時入札之由十四番より申来候間、田中長右衛門出張申付ル

一 仏国行建家見分として松方殿木挽町普請場江来光ニ付、益田罷越候事

一 室町支店より、博覧会出品同事務局より検査として、午後三時より出張相成候事

一 横浜着香港買入麻袋百五十五個四万八千枚之内、壹万百枚三十四箇四日市送りとシテ同地へ残し置、アト浅草へ船送り申越ス

一 昨日田中長右衛門儀深川其外米廩主任申付ル

一 今日より田中藤助大坂出足、四日市出張申来ル

一 横浜支店松本常盤月給七円五十銭ニ増給申付候事

十一月七日 水

*〔〇〕

一新潟米事件は、来ル十日より第四国立銀行東京店支配人辻金五郎ト申仁彼地へ出発ニ付、手続書を以明後九日朝御断承度ニ付、御用候ハ、明日正午迄ニ第四銀行江出状致候様三野村申来候事

一 国債局より大坂銅見本下渡指令書当社へ送致之筈ヲ、誤而直ニ大坂出張局へ相送候付、不取敢電信を以申越候間、当

社ヨリも受方可申出段本局より申来候付、拜司江電信セリ
一 勸商局、国債局へ伺出置候富田冬三龍動出張当社委任事件、
此度帰朝ニ而免度義聞置之指令有之候事

一 此度上海支店之義は、第一国立銀行トノ乗合ナルヲ以笹瀬
正明ト云フものヲ副役ニ雇入、上田江相副候事、就而は渋
沢と評議、上田は廿五円、笹瀬は廿円、外ニ賄料一ヶ月拾
円ツ、差遣し可申事

旅費は上等の船客料ヲ与ルコト

上海資本金は双方より式千五百円ツ、五千円となし、余者
貸付スルコト、尤利息相付可申事

右之件ニ取極メ事

一 英一番より飛切米見本ヲ以買入度旨申越せしニ付、夫々見
本差遣し候事

一 七十六番ハウイエ来リ、横浜支店ニアル出穀は是非残ラヌ
売却致度旨懇談なせとも、渋沢の荷物体ニ而九十七枚半
迄ナレハ売却スヘシ、左も無レハ売却不致ト断レリ

*「鉛筆にて○印あり」

十一月八日 木

一 兵庫・大坂買入米式万八百七拾五石式斗七升六合、代金十
壱万七千三百三拾七円九拾四銭五厘甲三拾九号証書并馬関
北国米式万四千四百六斗、代拾万四百壱円九十八銭八厘甲九

拾号証書出納局より下渡相成、如例預り置候分下ヶ紙ニし
て差出置候事

一 横浜競馬ニ付案内有之、益田午前十時ヨリヲリヤンタル銀
行江罷越候事

一 上田安三郎義、上海出張中月給式拾五円外ニ賄料拾円宛支
給之義申渡ス

一 買入米代大坂、兵庫ニ而五万円、若津三万円之辻出納局ヨ
リ請取候事

一 陸軍ヨリ毛布内金并絨殘金トシテ壱万円余受取候事

一 兵庫買入注文小麦三千石相揃候付、アト引続買入金之内ト
シテ壱万円出納局へ可申出ニ付、郷大書記官へ申入済ニ而
アト引続買入可申との事

十一月九日 晴 金

一 上田安三郎西京丸ニ而今日出発ニ付、金壱万五千元若津買
米代之内江、五千元上海基本金トシテ長崎支店へ現送致候
事

一 笹瀬正明(銀行ヨリ差越ス人)上田ト同行ニ付本日当社へ傭入、
出張中月給式拾円并賄費拾円支給之義申渡事

一 岐阜県二等属佐野成績来店、同県産葉烟草見本差廻候間、
製造之可否ハ素ヨリ優劣等如何哉試験為致度、尤座高三
拾万斤位之由ニ而、是迄不殘三州江送り出し喰田煙草ト唱、

東京江送り来候由

一 過ル五日中島新三仙台着、六日石巻へ罷越候段郵便来ル
 一 浅野又兵衛来店、大坂より毎月坂本平助製造延地丁銅金高
 貳千四百円計送り来候ニ付、右為換九歩金借受、着当日よ
 り五日間入金之筈ニして、百円ニ付五十銭、尤右日数ヲ越
 ル時ハ壹日百円ニ付三、四銭位之日歩利ヲ以定約相願度段
 申来候事

十一月十日 土

一 会津草倉鑄形銅八万五千斤、山形幸生同壹万斤、出羽荒川
 同壹万五千斤、一口ニシテ平均十八円八拾五銭、唐銅五万
 斤、平均拾五円八十銭ニ買入吳候様淺又より申出候事
 一金七千六百六拾貳円貳十銭上海買入麻袋四万貳千百枚代壹
 枚十八銭貳厘換出納局より受取
 一 麻袋三百入三拾五箇勢州四日市送り、来ル十二日出帆東海
 丸江積約定を以横浜支店より同社へ相渡候様取計為致候事
 一 田中長右衛門今日アンニーウエストン号濡米入札ニ付出浜
 一 益田横浜十四番行
 一 支那政府貸与金一件ニ付、上海電信料四百余円今日国債局
 より取下候事

④ 一 兜町十二月限売埋千六百石貳千石若留名前之内
 千四百石

五円貳十六銭

十一月十二日 月

一金壹万円横浜支店貸 松本常磐渡 第一
 一同貳万五千元四日市出張古谷送候金 三井
 一 キングヲフスエーデン英船雇入、明後日より積入之約定ヲ
 以横浜積ニ而雇入
 一 十四回着約定緘代之内三万四千円陸軍より受取、銀行江差
 入候事

一 横浜貳万円洋銀買入として石井を以差送事
 一 四日市東海丸出帆ニ付、前断金差越受取証書為引替郵送致
 候事

④ 一 兜町十二月限四拾枚売埋 米又

貳十枚 五円貳十五銭 貳十枚——貳十四銭

④ 一同十二月限四拾枚同断 若留

貳拾枚 五円貳十五銭 貳十枚——貳十四銭

一 若留正米口銭

売米百俵ニ付貳十五匁

買米同断 貳十銭

右ニ仕度申出候事

一 安達何四郎義本日ヨリ月給六円宛支給申渡ス

一 此度雇入之キンクラフスウエーテンは七百八十八頓ニ而、
英国江五十式志半、歐大州江五十五志ナリ
碇泊日数十五日、明十四日より

十一月十三日 火

*〔拾回〕

一口チイル号輸出小麦不足ニ兵庫白米割積致可然段出納局よ
り達有之候事、尤厦門行ナリ五千石積約定

*〔十一回〕

一 キンクラフスウエーテン号輸出米袋詰、今日より浅草御蔵
ニ而始ル

一 海外為換取扱御申付受書本日大蔵省国債局外債課へ差出ス

十一月十四日

一 大坂出納支局伊東殿今日帰坂

一 東京鎮台被服陣営課へ呼出ニ付木村罷出候処、是迄大倉、
吹田兩人条約満期ニ付相廢、更ニ当社へ申付候而も差障無
之哉之段軍吏副松田より口達相成候間、事業ニ於而差障無
之候間、条約書面草案下附相願置候事

一 西陣織

霞広東織 曲尺^(カ) 壹尺ニ付壹円八十五錢
^(格力)
□ 模様紬織 同 壹円四十五錢

右小室信夫ニ申越置之出来直段候事

*〔十二回輸出船雇入〕

一 馬関輸出積入船タイタン破談、代り英国風帆船ベルシロル
号八百九十三噸之雇入ル 龍敦^(五十五式志半)
大洲^(五十五志)

*〔第九回同出帆〕

一 第九回輸出ロングヘル号大蔵省小麦三千石并当社米積入
(運賃欧大洲中へ) 昨日出帆之段神戸より電信有之候事
(志噸ニ付五十志)

一 新潟入鍵富徳次郎事三年前米国へ罷越商店ニ滞在、此節帰
朝ニ付同県大書記官南部氏より依頼ニ付、当社へ見習とし
て出頭可相成筈ニ打合相成候事

一 横山彦二郎より月給五円支給申渡ス、尤米方江相勤させ候
事

一 戦死招魂祭ニ付諸省休日之事

十一月十五日 晴

一 金壹万円兵庫小麦買入代金之内へ出納局ヨリ請取、第一銀
行江入ル

一 甲谷他ニ而買入麻袋四万八千枚、代金八千九百余円請取
(出納局より)同断

一 大坂新米代拾万円取下方申出ル出納局へ

一 第十二回輸出馬関袋詰米并若松廻米見本善悪共三通り出納
局ニ差出ス

十一月十六日

- 一 大坂、兵庫米代拾万円申出候内八万円受取、三井銀行江渡ス
- 一 第拾貳回馬関輸出用英国風帆船ベルシロル号免状六十六号を以下渡候而直ニ長崎へ郵送セリ
- 一 岩橋万造回漕船一件ニ付訴訟為致ニ決シ、南一介江代言人相頼、書類請取書引換相渡ス
- 一 益田横濱行

十一月十七日

- 一 広島丸入着、原彦太郎大坂より帰店
- 一 長崎詰増田孝七同船ニ而帰社、九州米勘定書類持帰り候事、出納局米受取書も同断
- 一 山口県令関口同船ニ而着
- 一 明後日仏国送り門検査トシテ松方其外出張之筈

十一月十八日 休 日曜日

- 一 昨十七日京都府知事榎村出京
- 一 益田、木村午後会場行

十一月十九日 月

- 一 昨日長崎三井銀行江電信為換壹万円取組候事

一 鍵富徳次郎、光村(アキマツ) 今日より見習として入社致候事

一 関税局より頼之生金巾内国木綿代市中大取引并小売直段凡取調書差出候事

一 今日仏博行門ノ検査アリ、無滞相済ム

十一月廿日

一 昨日高橋某古川市兵衛之代ニ約定幸生壹万斤、荒川壹万斤 鑄型銅買付ケタリ、横濱迄先方ニ而持付ケ賃常ニ拾貳錢ニ而取極メタリ

一 昨日之仏飛脚船ニ而鮑貝(朱清カ) 殼千貳百斤英国へ積出しタリ

一 横濱馬越病氣ニ付、代理深井多七江命帰京聞届候事

一 中島新三貢米取組ニ付委任状申越したり、依而差遣ス

一 大藏省江孝出仕ス、加州并青森等安直之もの買付可申旨被命タリ、郷大書記官御談シ

一 出納局江も出仕シ、欧州より之電報ニ通譯書差出しタリ

一 ハツチャロル号ハ弥長崎江立寄候事ニ取究りたる趣、并ハ

ルミノ号アモイ行廿五錢ニ而俵ノ儘積入候事決定せりと拾

四番より申越したり

一 養之助子西京行之事アルニ寄り、武之助子出納方を引受ル

筈

一 大坂、兵庫買米代之内五万円本日受取ル

一 三陸米買入ニ付入用之由ニ付、出納支局へ電信為換ヲ以忒

万円出納本局へ相願、聞濟之上式万円上納ス
一陸軍第拾五回絨毛布内金四万九千円受取

十一月廿一日 水

一四日市買米代之内三万円受取、今日出帆田子浦丸便ヲ以

一蛎殻町一月限買附六拾枚 本 米又

五 五円十五銭 十五 十七銭

式十五 十六銭 十五 十八銭

一一同所同五拾枚買附 貳番 同人

拾枚 五円十六銭 四拾枚 十七銭

一広島丸ニ而養之助殿西京行

一兜町一月限 百六拾六枚 八十三 五円拾七銭
同 十八銭 本

一一同 貳百三拾四枚 百六十 五円拾七銭
同 七十四 十八銭 貳番

一今日東京鎮台江願書出ス

一三重岩村県令ヲ尋問ス

十一月廿二日

一素麵長 壹箱二百九拾把入

正味量目壹貫四百目、此金七拾銭

即ち百式十目一斤二付六銭 壹割上ケ

一切素麵 壹箱貳百把入

正味和斤三拾斤入 此代拾斤二付五拾銭 百六十枚

即ち百式十目一斤二付三銭七厘五毛 壹割掛

一細同 壹箱三百把入

正味壹貫貳百目入 此代 九拾五銭

即ち 同様二付 九銭五り 壹割

一棒鱈 一円二付貳ハ八百目

百斤二付五円七拾貳銭 五分□□□^五 五割

一昨日大蔵省談し加賀、青森共当分見合之沙汰アリ、新瀉も

三元式十銭以上ナレハ買フニ不及との事なり

一金三万円受取り(出納局より)たり

一馬越恭平昨夜益田宅江来、伊勢□□之話アリ

一島田敬助より買入之米は、米与より第一国立銀行へ質入レ

ナルヲ以同人より銀行へ断り、当社よりは銀行へ入金し而

受渡ヲ可致約条

一小麦厦門積之分は俵別入レ高平均スルコトニ決ス

一若津より長崎江回米運送規則当社江出納局より下渡しなり

たり

十一月廿三日

一新嘗祭ニ付諸官省休日

十一月廿四日 (記事ナシ)

* [三] 銀 53.030

第一 60.337]

十一月廿五日 日曜日

十一月廿六日

一 出納局長与倉殿四日市出立之義申来事

一 香港へ輸出白米ハ神戸ヨリ積出し、玄米ハ東京ヨリ五千石、下関ヨリ五千石積送度ニ付、雇船之都合ニ寄り石数増減ハ不苦段ニ而雇船可致旨、出納局より申来ル

一 三池石炭横濱売代之内七百五拾円本日鉾山局江相納、右証書長崎支店へ送り勘定為致候事

十一月廿七日

④ 一 兜町一月限百枚買附 五円拾九銭 米又

一 益田横濱行

一 大坂買米代之内江拾万円電信為換出納局ニ相願候事

一 キンクドムスウエーテン号并ハルミノ共夫々巡回せり

一 十四番行アルウインより之為替手形調印為致候事

十一月廿八日

一 白米量目検査為致見候処、壹石ニ付貳百貳十八斤余アリ

④ 一 ①ノ買十月限百枚 五円三拾一銭五リかへ売埋
但し廿九日

一 東京鎮台より木村呼出しアリ出張ス、書面加筆ヲ要スル一条アリ、直ニ之ヲ更正し而差出ス

十一月廿九日

一 大坂より出納局電信為替十万円受取夕趣申越ス^(カ)

一 亜米一ゲ一より手紙アリ、兵庫ニ而九拾万斤より九拾貳万五千斤之米貳弗壹分ニ而買受ケ可申越申越ス、依而電信有之候ハ、金相払フ否哉問合せニ遣ス、尤大坂江は其事文通ス

一 ワットソン来訪ス

一 出納局江白米并玄米香港売却勘定書凡積持參ス、直チニ輸出ニ決議ス、尤以来支那送之米は決し而海上乗合ヲ要セサル事之達シ飯田氏よりアリ

一 ロテール積之小麦貳弗貳分五リ、白米貳弗五分ニ而売却せし事(厦門) 届出置ク

一 アニウエストン荷物受負金内とし而、洋三万五千四百八拾九弗三分六リ受取りタリ

一四日市送り金正金明日之田子ノ浦丸ニ而式万五千円并為替
手形式万五千、いづれも出納局より受取り差立ル

一キングトンヲフスエデン号今日出帆ニ付、海上受合何程相
付ケ可申哉打合せニ付、百斤ニ付洋式弗六分と十四番へ返
事ス

一ヒットマン来訪、カルカタ袋直違ノ事ヲ細説シ、十四番江
懸合遣ス

一昨夜東洋銀行江出頭し而、ロセール船売上代金直チニ受取、
香港ニ預リ置呉候様申遣ス

十一月三十日

一金壹万円電信為換、壹万円陸為換ヲ以大坂ニ而入金之上、

取計方三銀ニ電信頼ム

*[O]

④ 一 月限百枚売埋 米又

五十枚 五円三十五銭 五十枚 —— 三十四銭

一 アンニーウエストーン号米請受代之内、三万五千四百八拾九
弗三分六厘本日出納局へ上納ス 宮本

一 垂米一江兵庫売米は官米ニ致呉様飯田より談有之ニ付、其
段大坂ニ可申越事

一 勸農局ヨリ製造人江貸渡為引当支那茶フルイ十組注文之分、

横浜入港之内ニ而五組カ丈当方江借受度松方江申立呉候様、
熊谷申来ル

十二月一日 小雨 土

買付 一 蛸殻町二月限百枚 前 米又 東廻し

④ 五十 五円三十五銭 ④ 五十 —— 三十六銭

買付 一 兜町二月限百九拾枚 前 米又 東廻し

④ 百 五円三十四銭 ④ 九十 —— 三十五銭

④ 売埋 一 同一月限百拾枚 前 五円三十三銭 米又

④ 一 蛸殻町十二月限売埋 前 百枚 五円五十七銭 米又

一 今日出納局ニ而兵庫売新米四千石は、大蔵省買米ノ内より

可相渡儀決したり

一 アンニーウエストーンは惣受合ヲ付而欧州江雇入不苦趣達しあ

り、其趣十四番江申遣ス

一 今日勸農局江出仕シ而富岡製糸売捌之命令状写ヲ受取りた

り、未夕御請不差出

一 大蔵省客室窓掛ケ見本決定ス

一 海外荷為替取扱程規聞届の旨ハラより達アリ

十二月二日 休

十二月三日

買付

一兜町二月限拾枚 東買 五円三十六銭

一亜米一江兵庫ニ而可売渡大蔵省新米ハ升量ヲ以売渡ニ付、

枮欠ハ市中買入通りニして試計ニ致シ、右欠ヲ以平均勘定

□可致旨出納局飯田より達シ、木村承り帰り候事

一馬関北国米外国送り之分も同断、宮本承帰候事

*「〇」

一益田横浜行

一横浜ニ洋銀買入之為メ式万円送ル

一伊達弥助来社ス

十二月四日 晴

買付

一兜町二月限三拾枚 式番 五円三十九銭

一岩橋万蔵石巻運賃一件勸解願過日より南一介江委任着手、

当一日才判処ニ於而对談ニ相成、本日万蔵代理小倉芳助よ

り約定当日渡金ハ、即今は割入金残金は十二年六月限返済、

第式渡ニ当ル賃金ハ十一年一月より一ヶ月五拾円宛月賦返

済之証書ニ改正シテ、前事件ヲ取消可申事ニ決定スルニ付、

本日裁判所届出可申段、南氏来店談示相成候事

一兜町一月限百枚 買付 伊東

五円三拾四銭五厘

一兜町一月限五拾枚 買付 伊東

五円三拾五銭

一大分県第二課官員原田信吉殿紅茶見本ヲ持来リ、増田君ト

対面シ、紅茶之見本残シ帰りタリ

一蛎殻町二月限百枚 買付 米又

五十枚 五円四十銭 五十枚 —— 四十壹銭

一兜町二月限拾枚買附 東

④六枚 五円三十七銭 ④四枚 —— 三十八銭

*「入帳済」

一陸軍絨毛布代之内、五万九千三百九拾五円拾四銭壹厘下渡

相成候事

一出納局より馬関米代三万円并麻袋代内金壹万八千円共下渡

相成候事

一横浜支店江洋銀現代り壹万円送ル 金山

一香港より来電アリ、白米三万ヒロ式弗六分、玄米式万担

式弗四分ニ而一月中渡売約定調フヘシ

銅十九弗五分ナレハ売レル

右ニ付出納局へ申立許可ヲ受ケ、直チ二十式番江申遣ス
尤銅も売却之事頼ノム、浅草より八日積玄米積出之筈ニ而
手配ス

一 渋沢栄一來社、出穀之事、上海支店組合難相成事、香港江
遣スヘキ執行之事等談ス

一 ウラルシホスマン來社ス

一 ヒットマンより之報、香港錢高価尙弗千〇五十枚とのよし
ナリ、抛而大蔵省申立此便送ル積リ書面差出ス

一 大豆有高等南部、仙台江問合せし処、南部ニは少々有之趣
申越ス、価は石ノ巻着三円十錢

一 昨日支那人之手口ニ而信州屋ナルモノ米買入之為メ來社シ、
百斤之価貳弗と申聞候ニ付、貳弗一分ナレハ売却スヘキよ
し答ヘタリ、大豆も貳弗ナレハ買度よし申居レリ

一 龍動へ電信し而船一艘雇入之事申遣ス

十二月五日

一 夕刻ニ至リ而香港より電信アリ、米約定調印せり、相場玄
米貳枚四分、益気配よし、此後高直之見込、白米漸々少々
ツ、御積送り可然事申越、銅は売却せり、幸生ノ品人ノ好
ム処なり

一 米國香港行郵船、正味百斤拾六錢ニ而瓦⁽²⁾壹万枚積送り之約
ヲ結フ

一 伊國送り蚕種約条草案片山江送り遣ス、但し渋沢喜作來社
ニ付、則ち草案ヲ為見、都而内意ニ付決定差送ル、同人奥
州へ出立スルニ付、約条取結之事は委托ヲ受ク

一 洋銀四日迄ニ可相払分悉皆払入、受取証書馬越より金山ヲ
以差越ス

* [23,670

第 一 105,429]

一 肥前ノ人原田某今日長崎江出立候ニ付、^{石炭}鉾山之事羽太江委
敷申遣ス

一 上海江も出帖ス

十二月六日

一 出納局ニ而船式艘雇入許可ヲ受ケタレハ、アベルコロン雇
入之事フィセルヘ申遣ス、但シ四日市ニ而新古積込之事
一 スナイドル彈藥之入費ニ付并勘定書小倉ヲ以國債局へ差出
ス

一 銅香港送り入費百斤十八錢と見而^(實)文八百目ニ付、百元
ニ付五百円ニ当ル、即ち百元ニ付九拾錢程之運賃トなり
一 勢州買米代之内五万円正金請取、大坂同断電信為換七万円
今日達相成候事

一 外国為換当社取扱ケ所届大蔵省國債局江届出事

十二月七日

一 出納局より呼出しニ付仕せし処、大坂は五円以上に而も上物撰取少々、買取差支無之、奥州は三円七拾錢、石の巻渡高シ、故ニ見合せ可申、肥前は肥前米ニ而五円以下之分は買取可然、尤其品能々相撰候様被申付候事

一 右夫々電信ス、中島新三より四千元福永へ送り金之事電信ス

一 大豆買入米三円三十錢買止メ之事中島へ電信ス、福永江も約条見合せ之事申遣ス

一 千早丸着港之よし申越ス

一 午後亞米一ウヲルス来り而、風帆船雇入之事ヲ頼ム

一 兜町一月限六拾枚 三十 同 五円三十七錢
三十 同 三十六錢

一 蛸殻町二月限貳百枚 百 同 四十六錢
百 同 四十五錢

右いづれも売埋メ

一 執行なるもの香港派出の事示談調フ

十二月八日

一 当ハルミノ船百六十俵小麦不足之事申越スニ付、送り方ヲ為ス

一 香港式枚四分五リニ騰貴せし事電信アリ

一 陸軍省毛布直段相違の事ニ付、互ニ話アリ

(一)

十二月九日 休

十二月十日

*「フラチル之事」
一 若山県フラチル之事

元数寄屋丁四丁目若松豊次郎方 瀬戸十助

稿老ヤール十五錢 無地同十四錢

一 大蔵省純張本日より七十日限り掛ラス上納候様指令相成候、

金高貳百三拾円也小倉

一 岩手県令島惟精来社

一 四日市式度目輸出米積風帆船英国デュークラフ・アベルコ

ルン凡千五拾噸積分、英国行志噸ニ付五拾二志半、大洲行

五拾五志ニ而雇入度免状願出候事

一 陸軍渡一件米諸入費惣計算書とも出納局江差出候事

一 欧州よりスナイドル弾藥百五十箱、外ニ八箱ノ船積証書落
手せり、Betuna 号積証書ハ馬越江渡ス

十二月十一日

一 勸農局より今日富岡製糸巴里斯売捌之命令状ヲ得タリ

一 十一月三十日迄現在高五千六百九拾九斤式分六リ

(直一カ)

□有合せ之分送り方被申付候ニ付、差支無キ趣答置ケリ
一 欧州よりアルウィン昨夜手紙ニ而、毛布刳除もの凡疋万枚、
絨余分もの三千ヤール、極安直ニ買収可相成乗合ニ而買入
候而者如何之趣申越候ニ付、今日以電信買入方申遣ス

一 昨日島菱之受米悉皆済み

一 ホーリン船老万担程積之船、俵之儘ナレハ式十錢、三分一
散米歟又ハ袋入ナレハ十八錢ニ而、香港江神戸より雇船致
候事、但し出納局へ御届出ス

一 尚千五百石程も正米当地買入之命令アリ

一 西郵勝三来社し而、毛布染直シ之事陸軍省依頼ス

一 五代氏銅パール船へ積込之事懸合候処、廿五錢ナルヨシ
ニ付、即チ同人江問合せ候へ共不相知ニ付、其旨ヒツトマ
ン江申遣ス

一 ゲーリツキ号今日より積込之趣申越ス

一 報知新聞紙引取今月は見合之事申越ス、尤代価問合ニ付式
円式十錢位ナルベシト答へ置ケリ

十二月十二日

一 兜町二月限三拾枚 買付 米又

五円三拾四錢

一 蛸殻町二月限式百枚 買付 米又

百枚 五円三拾三錢 百枚 五円三拾四錢

一 末松殿ヨリ預り置候生糸七百十七匁三分、田中ニ依頼シ売
ニ出シタ

一 兜町二月限り四拾枚 買付 東印

式十枚 五円三拾三錢
式十枚 三拾四錢

一 同二月限り 式拾枚 買付 米又

五円三拾三錢

取消ス(注、右二行文字上に朱書されている)

一 今日木村下ノ関江出張ニ付、益田も同道出浜ス

一 十四番江アルウィンより之為替三通不渡り横浜店江預ル

一 東京買米代老万円受取ル

十二月十三日

一 兜町二月限式拾枚 買付 米又

五円三拾三錢

一 養之助今日帰京

一 金老万両石井金之助ニ為持、横浜へ遣ス

* 今日ゲーリツキ出帆、積荷老万俵

一 信州屋、静川屋兩人支那人同道来社、頻ニ米之示談アリ、
到底決定せず

一 益田大藏省ニ至リ、奥羽米輸出の事ヲ一層盛ニせんと申上
しニ、東京有米僅カニ四千石、下ノ関老万式千石、大坂三

千五百石ナルヲ以実分之事ハナラス

一松方大輔殿ニ龍動茶勘定書ヲ呈ス

一拾四番へ小麦之買付書ヲ送ル

一大坂、下ノ関北国米有高の聞合せ置ク

一福永文七より文通ニて、千早丸昨夜午式字石ノ巻出帆のよし、

式千五百有余石積入之事申越ス

一ロングフエロー之荷為替金国債局より拝借とし而受取ル、

勘定書帳記は別に規程取設ケル筈

十二月十四日

一横浜支店江金札一万円差送ル

一三菱商社ヨリ小野義臣来訪、面話致ス

一勸農局長江富岡製糸仏国巴里ニ而売捌方御下命之請書差出ス

一鉱山寮所轄蒸気船千早丸ニ而石ノ巻ヨリ積越候米江保険料

差出候儀、第一国立銀行江談判相整ふ

一夜渋沢ニ集会し而株式之取調ヲ為ス

一執行正道辞表聞届之事申越ス

十二月十五日

一兜町二月限百枚 買付 米又

五円式拾六銭

一同二月限百式拾枚 買付 米又

五円式拾六銭

一勸商局長河瀬氏ニ、内務省ニ於而見候海外荷為替貸金は勸

商之主意ヲ体認候而取扱可申云々、右ニ付米国取扱人ニ福

井信一江依托致度頼置ク、阿片之話アリ

一出納局ニ至リ、三千石買入之注文アリ

一ザンジバル号蒸気三万担積香港江神戸、下ノ関より雇入相

成りたり、神戸碇泊日数式十日、運賃ハ別冊輸出備忘ニ記

シ置ク、右之事局へ申立シニ、白米ハ大坂壹万五千担、下

ノ関より玄米壹万五千担輸出の事飯田殿より達シアリ

一アニーウエストンも弥今日結局金子受取り相済タル趣申越ス(夕刻)

一米国郵船シテイヲフベキン号壹万三千担積入之事談判相

調フ、但しゲリーツク同様

一糸平来社、当月限仲裁ニ立ツ、尤更ニ決セス

一馬越来京ス

一信州屋支那人之使とし而来ル、未夕結了セス、ツマリ横浜

持付百斤式弗壹分五リニ而口銭ヲ出ス歟、然ラサレハ口銭

無之ニ而式弗一分式リ五毛程なれば壹万担取組可申旨決答

ス

一香港江壹万五千担程式弗五分シテイヲフヘキン号積之分

先売り之事、フィセル江頼み電信ス

十二月十六日 日曜日

一明日仏行人員出帆ニ付欧州行書状認ム

一坪内江生糸命令状写海外荷為替取組程規并海外支店取扱手続書、七宝会社積付目録(神戸より風帆船ニ而積取之分)、海外ニ而可取扱手数料書等写取り差送候事

一夕刻仏行人員江別盃ヲ遣ス

一今便龍動江鮑貝千七百斤程送ル、アルウィン江も出状ス

十二月十七日

一昨日ハ飯田君之宅ニ行、香港より之電信ゲリツキ号ニ而積出シタル分は、無滞式弗五分ニ而売却せし事ヲ届ケル

一今日糸平来リ而頼ニ懇望シ、当月限千枚以上是非解合ヲ要求スルニ付、五円五十銭ニ而同人江為任タリ

一三時四十五分ニ而益田孝横滨江行ク、但し仏行見送り等之為なり

一蛸殻町米商真鍋某ナルモノ、津軽米尅万四千俵程持参引合ヲ為ス

一今日仏行スル人員ハ浅田逸次、駐春亭、外ニ鵜飼外兩人、事務局官員等数十名なり

一横浜ニ而フィセル二面会ス

一此度巴里支店江生糸器械糸六箇五百三十七斤送り遣ス

一大坂ニ而協同社ノ土蔵出火、米百石程焼失、千五百俵程濡米出来之趣申越ス

十二月十八日 火曜 曇天

一蛸殻町十二月限三百枚七枚 売埋 米又

五円五拾銭

一同 十二月限八拾枚 売埋 米又

五円五拾銭

一兜町 十二月限七百貳拾枚 売埋 米又

五円五拾銭

一同 十二月限 百枚 売埋 伊東

五円五拾銭

一午後金貳万円三井銀行エ振込ミ、下ノ関江電信為替取組タ

一今日出納局江出仕ス、肥前米若津ニ而五円内ハ上物而已相撰買取り之事命令アリ、筑後米も上物ナレハ買取り而よろしきよし、大坂焼失之事、アニーウエストン八千四百弗上納金新潟丸勘定書手数料ヲ除キタル分呈進ス

一從昨日正米買米又々着手ス

一スナイドル弾薬三拾尅万六千発ベルサ号ニ而到着致シタル趣報知ヲ得タルニ付、大蔵省岩崎君江通達し而陸軍省渡方

ヲ促ス

一 鎮台より一ヶ年需用之要品直積り可申出旨沙汰アリ

一 渋沢氏来社し而古川銅之談話アリ

昨夜之郵船ニ而旧メ銅五千円香港江送り方ヲ為ス為メ、第一

一 国立銀行より出張せし処、已ニ夜ニ入り税関退出後如何

トもなし難く、次便ニ延ス

一 千早丸昨日無事着之報知ヲ得タリ、抛而八百円運賃内金相

納メ、明日より陸揚之筈

十二月十九日

一 蛸殻町一月限六拾八枚

三十枚 五円貳拾六錢

三十八 五円貳拾五錢

一 同 二月限三拾枚

五円貳拾九錢

一 同 二月限百七拾枚

八十五枚 五円貳拾九錢

八十五 五円貳拾八錢

一 兜町 二月限百枚

三十枚 五円貳拾九錢

七十 五円貳拾八錢

一 同 十二月限拾枚

五円五拾錢

一 同 一月限六拾貳枚

五十八枚 五円貳拾六錢

四枚 — 貳拾五錢

一 同 一月限百五拾三枚

五枚 五円貳拾八錢

百廿五 — 貳拾六錢

〆一月限 貳百八拾三枚

二月限 三百枚

十二月 十枚

一 武之助殿私用ニ而西京へ帰京ス 広島丸

今日上海并下ノ関、長崎等出帖ス

一 羽太紀克貳十五両、水谷伝七貳十五両、中野平三五十両

夫々賞状相添へ目録差遣ス、但し九州騒乱中之功勞ヲ賞ス

馬越恭平も五拾両、右同断

一 横浜より香港へ到着之米袋A B印二枚差越ス、直チニ出納

局へ持參ス、A之方三錢五厘揚リニ申上、則ち拾万枚程も

買入可然之達ヲ蒙レリ

一 九百頓積ノセーラボルン風帆船五十志ニ而龍動又ハ歐大洲

ニ行くとノ事ナレハ何出候処、雇入而差支無之よし被申付

候ニ付、即チ兩条共拾四番江電信ス

一 拾四番より之電信ニ云ク、香港ニ而廿九日積之米は已ニ貳

弗四分七リニ而売却せり

一 龍動より電報アリ而生糸ノ高価ヲ告ク、抛而直チニ横浜江派出し而夫之報道ス
一 大蔵省より東京買米代とし而金壹万円受取ル

十二月二十日

一 今日朝野新聞社長來車、紙一件ニ付益田ト相談ス
一 今午後横浜ノ商人信州屋并静岡屋同伴來社シ益田ト対面、米一件相談致候得共不行合シテ帰ル
一 今朝大蔵省へ米見本大坂、兵庫買入之分呈進ス
一 今朝金壹万円為持松岡并磯清五上州江派遣ス、生糸買入之為ナリ

一金壹万円東京買入米用大蔵省より受取ル

一金貳万円横浜江石井金之助為持差遣ス

一 但し洋銀下落ニ付買付之為メナリ

一 龍動より電報アリ而高砂丸積四千(アキマ) 袋九志七片半、但大沢もの売却之事ヲ報知ス

一 其外毛布青壹万五千枚、赤五千枚買付タルコトヲ申越ス

一 与倉殿より之達しニ而、三千石内ニ而も買米止め、諸国相場景況問合せタシ、報知可致様達ヲ受ケタリ、抛而諸方江電報ス

一 古川市兵衛之銅香港江回送スベキ分五万斤、仏ノ郵船ニ而積ムコトニ決シタリ、運賃貳十銭

一 手島(マ)(大倉組來社、東京鎮台云々話アリ)
一 真鍋某津輕米一条ニ付、増田幸七横浜江相越ス

十二月廿一日

一 富岡製糸所山田三等属より、歐洲直売之順序愈々相濟タル旨ニテ、生糸目錄相添達し有之候事

一 今日飯田大蔵権少書記官ヨリ三万ヒコル神戸積之蒸氣船式拾壹銭(マ)トニ而宜敷候間、相雇候趣御達シニ相成候

一 今午十二時頃福岡県令渡辺殿來社、益田ト対面、色々該県勸業之事相談ニ相成候

一 宮本、増田、田仲、遠藤、米又へ阪本町錦吾樓ニテ夕刻ヨリ酒肴ヲ遣ス

一 今般手代見習席ヲ置キ、并ニ当直宿直規則ヲ設ケ置キ候事

一 石井金之輔、鈴木帛吉、田中房吉、井上音三郎、斎藤鐘吉ヲ手代見習席申附候事

一 保坂弥七倉庫方兼島方売買方申付候事

一 古谷龍藏貳十五兩、麻田左衛門百兩、菊永昌介五十兩、中島新三百兩、九州一条賞美状相添差贈候事、尤麻田并菊永は銀行ト乗合

十二月廿二日 土曜日 晴

一 原彦太郎本日四日市へ出張ス

一 右同人以借金三万円現送ス

一 横浜支店へ金貳万円現送ス

一 横浜拾四番フイシヤル来社、益田氏面会ス

一 大蔵省ヨリ大坂、四日市ニ於テ買入米代ノ内トシテ金六万

円御下渡相成候事

但シ三万円大坂ノ分、三万円四日市ノ分

一 宮本新右衛門、竹泉嘉平、竹内恒三

十二月廿四日 日曜日

一 此度雇入レタルベルサ号神戸江廻し候ニ付、もし水入とし而百五十頓計リ積入レ候ハ、洋拾銭ニ而積入可申旨申

越スニ付、即チ当社之分三千三百俵直チニ送り出ス

一 此度シテイヲフペキン号江可積入分ハ、御蔵之分五千俵、

外八千俵は当方より積ムコトニ決ス

(注)

十二月廿四日 月曜日

一 昨日龍動より着せし白米クレミユス見本并原品見本相添大蔵省江呈進ス

一 諸県買米廿五日限り一時相止メ、アト買入ハ明春別ニ相達スル筈之申渡アリ

一 海外明年之輸出ト予算ヲ差出スベキ達アリ

一 米袋麻小振リ之分見本ヲ呈セシ処、壹万丈ケ急ニ注文可致

口達アリ、尤代価凡八錢見込

*「此分廿四日之部ニ加フ」注、右十二月廿四日より中カッコに括る

廿二日 土曜日続キ

一 今日米国郵船ニ而欧州江文通ス

十二月廿四日

一 香港行米検査せし処

英百四拾九斤半、内風袋拾壹斤より拾斤迄ハセーと云フ袋

拾四番より送り越ス、其入り量百〇九斤英、内風袋壹斤

此枘目三斗五升、代価壹袋ニ付洋七錢之見込、八錢と見

込而一石ニ付八拾三錢、百斤ニ付拾錢、内風袋一斤之分

米代とし而收入スルニ付、此代式錢四リト見るトキハ風

袋ノ代七錢六リ

一 限月買付残有高米平均本日本米又ヨリ左之通報知ス

一 兜町一月限拾五枚

一同 貳百三拾枚

右平均直段五円貳拾三錢五厘七毛

一 兜町二月限三百枚

一同 三拾枚

右平均直段五円三拾四錢九厘

一 蛸殻町一月限四拾貳枚

又印

東印

又印

東印

又印

又印

右平均直段五円貳拾貳錢

一同 二月限百貳拾枚

右平均直段五円三拾三錢

又印

右之通ニ御座候

一 今日デユク・オフ・アベルコロン号免状大蔵省ヨリ受取、

書留ニ而横浜拾四番江送ル

一 アニーウエストン号勘定書再調ハラ江出ス

一 執行弘道此度香港にて銀銅貨交換等之事取扱之為メ第一国

立銀行ト申合せ、都而上海同様ノ取扱ニ而当社江備入、月

給五十円差出候事

一 本日龍動十一月二日発之書面達ス

一 夕刻ヨリ福岡県令及ヒ崧小二郎君へ浜町常盤屋ニテ肴酒ヲ

差出ス

十二月廿五日

一 横浜支店へ金三万円現送ス

一 横浜支店ヨリ加藤幸平茶ノ事ニテ出府ス

一 大蔵省ヨリ荷為換金三千七百円御下金相成候事

一 横山彦次郎本日勢州四日市へ出張申付候事

一 昨日英国風帆船アヘルマルン号勢州四日市へ為差廻、大蔵

省ヨリ御免状御下渡ニ付、本日請書差出し候事

一 大坂、兵庫、馬関買入米九万三千七百四拾余石代金及経費

等ノ残金九千八百九拾六円貳拾五錢壹厘、本日御下金ニ相

成候事

一 拜司、古谷、中島、秋本、金子、福永等へ今年ハ本日限ニ

テ買米可見合様電報ニテ申遣ス

一 大倉組手代手島氏来社ス

一 香港より電信ニ而玄米相場式弗五分五リ、白米式弗六分ニ

而買手有之由申越ス

一 此度仏郵船ニ而古川銅五万斤積込ム積リ、旧銅貨は壹万円

程送ル筈、皆香港

一 上海江は旧銅貨四千元差送可申、積許可ヲ蒙ル

一 香港高価ニ付三陸米は往々騰貴可致、陸中は川下ケ不相成、

陸前米買入レニ如カズト、尚三円八拾錢迄なれば買入レ可

申、尤勘定は来年買入之分ニ加算可致旨、石ノ巻福永へ申

遣ス

一 伊達弥介ヲ招キ以徳織物之談事ヲ為ス、東京府、大蔵省等

之注文ヲも拝し而以來は必ス他江壳却不可致、又当会社ニ

而は精々尽力売方ヲ可致旨約束ス

十二月二十六日

一 龍動アルウィン氏ヨリ十一月九日発シノ書状着ス

一 西村席四郎明廿七日出帆船へ乗込帰坂スルニ付、来社ス

一 横浜信州屋ト支那人兩人同道シテ新米為買入来社シ、益田氏面会ノ上色々相談有之候処、終ニ直段不定メ退社ス

一 浜町中山氏来社ス

一 仏国博覧会出品荷物ノ事ニテ今夕ヨリ杉山佐七横浜ヘ行

一 清国政府ヘ貸与金ニ関シタル電信料横浜拾四番ニテ採換、

一 洋銀四百六拾三弗四分五厘本日フイセルヘ可戻、横浜支店

ヘ号外書ニテ申遣ス

一 仏国巴里斯及里昂ニ日本ノ領事館無之候故、巴里斯臨時代

理公使中野健明ヘ荷為換ノ義照会ニ及様、大藏省外債掛ヨ

リ御達有之候事

一 彈藥三百万発外債局ヨリ御注文ノ分皆着ニ付、惣精算書至

急可差出様岩崎君ヨリ御沙汰有之候事

一 高千穂丸積戻り米横浜支店ニテ是迄御預り置ノ分、此度弊

社ヘ御払下ノ義出納局ヨリ御聞届ノ趣相来ル

一 米国郵便船シチヲフヘキン号本日午後六字入船ノ趣横浜支

店ヨリ来報

一 伊達弥介と古代織物の事ニ付約定取結フ

十二月廿七日

一 一月限新穀町四拾貳枚之分五円三拾錢ニ而売埋メ

一 長崎、上海共出帖ス

- 一 散米ニ而送運之為雇入レタリ、但し出納局伺済ノ上月曜
日より荷物積初メ候筈
- 一 アニーウエストーン諸勘定金受取式分五リ十四番取立料送り
遣ス
- 一 神戸ニ而垂米一江渡シタル米四万九千余斤受取証書来ル、
抛而洋銀受取り江出状ス
- 一 執行弘道江昨日金三百兩貸渡ス、月給之内より式十兩ツ、
返却之筈、但渋沢ニも承知
- 一 保坂弥七倉庫課兼売買方島方申付ル
- 一 長崎ニ而昨冬三野村より被頼買入レタル肥前米勘定書差出
ス
- 一 ファイセル早朝来リ、諸般談事ス
- 一 大倉喜八郎と長崎之米事件談話ス
- 一 大蔵省江彈藥勘定可差出事
- 一 古川市兵衛銅十四番江相渡シタルニ付、受取証書第一銀行
江渡ス、但し売代金は同処江振込候約条

十二月廿九日

- 一 今朝十四番より手紙電信アリ而、オシニツク之事ニ付香港
弥騰貴式弗六分五リ之事申越ス
- 一 オシニツクは式拾式錢との事故断ル、尤マラバルと申ス蒸
氣船近日入津の由ニ付、横浜よりは十六錢、神戸よりは十
八錢、下ノ関よりは廿錢ニ而買入ルベシト申送ル
ヘルサ号□米ハ先キ売リヲ要スコトニ申遣ス
- 一 英一番より来状ニ而、米十萬俵ヲ五萬俵買入度趣申越スニ
付、精算の上壱萬俵より式萬俵迄式弗式分式リ、式萬俵よ
り以上四五萬俵迄式弗式分五リと申遣ス
- 一 英一番よりカントン米袋五千計リ売ルヨシ申越ス故、直チ
ニ買入方申送ル
- 一 遠藤ヲ浦賀江遣し、米の景況ヲ為見ル
- 一 南部齋藤之勘定書差送ル
- 一 仙台福永より文通ニ而預リ米之事申越スニ付、聞届電信ス
一 昨日五千円商社より受取ル
- 一 今月限り受米は商社仕切直五円五十式錢ナレ共、五円式十
錢ニ而勘定シ、正米来年ニ持越しスル
- 一 南部中島江電信し而、米下落のよしニ付買入方申送ル
- 一 ウラント云フ船八百噸積み最上ノよしニ而、英江五十志、
欧州江五十一志に而参ルよし十四番より申来レリ、依而直
チニ雇入レ申送ル
- 一 夜横浜より人ヲ遣ス、銅并旧銅貨積入之報知并十四番より
之受取証書ヲ帰參ス
- 一 ベルサ号昨日午時神戸江向而出帆ス、サンジハールは一昨
廿七日同地江向ケ出帆ス
- 一 フィッツパトリック号積荷損金拾四番江相払フ

一第一国立銀行より洋式千五百弗上海支店資金之内江受取ル、但し直チニ横浜江送ル

一社員若干名より歳暮ニ付式十五円ツ、借用申出タリ、尤一

ヶ月分月給貸渡シ之方聞届難キ旨相決ス、横浜之方も同断

ニ取計フ

十二月廿日

今朝飯田殿ニ面会、香港雇船等之事申告ス、ロツセル商会香港より電信の肥前一条ニ付云々申上ル、いつれ四日に取究挨拶可及トノ話なり

一ベキン号 社米八千七百三拾三俵

正味九拾貳万〇貳百三拾九斤八分式り

拾四番渡九拾万式百六十三斤一分三式り

此石

政府之分

四千九百九拾八俵

浅草仕出皆掛正味四拾四万六千〇七拾壹斤半

船渡 四拾三万九千七百三十六斤五分式り

此石

右政府ノ分ヲ除キ、余は皆海上受合相付候事と申聞候事

一龍動より電信アリ、魯土政府之和平ニアル^(マア)近キニアリト思

フ、もし然ルトキハ生糸高価ニ昇ルヘシ、電信アリ

一本日香港江見本送ル

A 陸中米 九年米

B 陸奥米 同断

C 陸前米 同断

AA 陸中新米 十年米

CC 陸前新米 同

D 播州新米兵庫買入

E 淡州新米 同

F 兵庫新米中取交へ

右いつれも香港江送ル

一島菱米扱伊東幸三口錢五十円差出ス

一上海支店、仏国支店開業之事大元方江照会シ、回答ヲ受ル

一アンペラ横浜より来ル、抛而津輕米式千袋積入レ相始ム

一中島より千石買入レシニ寄、アト壹万石

一安藤香港領事江渡沢ト両方より出帖ス

一中野梧一來社

荷物方附運送方手代

金五円也 丸 利助

金三円也 青塚伊之助

金三円也 中村小一郎

十年十二月二十六日

右者春来ヨリ事務非常之勉励有之候ニ付、別段之御手当シ

テ

十年十二月三十一日

金拾四円也

川上新十郎

金拾円五拾銭

稲垣保兵衛

金九円也

又原大治郎

右は月給支給候事

勝間田鉄藏

西南騷乱荷物取扱方繁劇之際出精致候ニ付、為手当金拾円被下之

川上新十郎

稲垣保兵衛

又原大治郎

上田甚兵衛

渡辺守太郎

西南騷乱荷物取扱方繁劇之際格別勉勵致候ニ付、為手当金一ヶ月分被下之

益田横滨工行

一横浜ニ而引合左之件々

一仏国江此郵便ニ而積込ム品ニ、生糸富岡ノ注文もの六千

余斤

一出殻会社之もの上品、渋沢之品上下品

一米国江輸出セシもの出殻各一箇備中生糸

一英江輸出セシもの茶五十五箱

一横滨荷物方之もの江も夫々手当ス

一拾四番ニ抵り香港江電信スル、左之通り

ベルミス船積余リ壹万俵、ヲシヤニック壹万担、右式

弗五分五リ以上ナレハ売却スヘシ、相場は此以後如何

なる見込歟電信セヨ

一亜米一より米代之内江壹万八千弗受取レリ、尤追而受取証書着の上決算の筈

一拾四番江毛布式百箇着セシヲ以、其税銀千式百弗、并銅之

税銀等立換ヘタルヲ以払異度旨申聞ルニ寄り、承諾シ仕払方支店江申告ル

一シテイヲフヘキン号ニ積込ミシ米東京之計算ト、船渡之計算ト凡式分五リ程の相違アルヲ以、東京之計算表ヲ拾四番

江遣シ而、其事ヲ香港江申送ル

一英一番より之返答ニは上来而已入用之よし

一木村三日下ノ関江来タル電信アリ

一田中藤助下ノ関着之事申越ス

一香港ロセル商会江播州米D、淡路米E并兵庫米平均見本F

并C陸前米送り出す、相場は兵庫之分式弗式分五リ、C印

は式弗式分式りと申遣ス

一信州屋民次郎来社シ、新陸前米入用之趣ニ而、百斤横滨渡

し式弗壹分八リなれ共、同人之手数料もイレハ式弗壹分七

り二而売却いたし呉度、但し俵数は壹万俵より貳万俵との話なり、抛而三千俵ナレハ貳弗壹分八りに而売却スルニ決答ス、尤横濱之在米千三百四十三俵三陸米は貳弗壹分五厘手取り二而売却スベシト挨拶、稍取極メコト為し而帰り去レリ

一 仏支店江出帖ス

一 横濱ニ而生糸之手配ヲ為ス

一 室町之勘定ヲ受取ル

一 大坂よりイツハトリツキ号并ベルミス号惣計算ヲ送り、此ニ於而初而明瞭ナルヲ得タリ、抛而概算スルニ、ベルミス之損は三百円内外、ハトリツキ之損は千三百弗計りなり、是偏ニ□□シ之勝負ニし而、此二事之損失ヲ以漸く其欠減之起源ヲ知り得タリ

一 今日アニーウエストーン出帆ニ付船積証書四通勘定書共拾四番より送り越ス

一 此二筆ヲ擱キ新年ヲ迎フ

除夜

明治十一年一月元旦

一 ガラバより書状ニ而、津軽米見本差越呉候様申越スニ付、則ち四千俵程有之と申遣し見本之ニ添ユ、外ニ兵庫平均見本一袋ヲ遣ス、但し価ハ貳弗分あり、尤津軽米之方ハ貳

弗分分り

一 執行弘道明日出帆ニ付来ル、安藤領事江之書面ヲ付与ス

一月二日 商業初メ

一 陸前新米三千俵卅一日談合之分、横濱渡百斤ニ付貳弗壹分七厘五毛無口銭ニ而信州屋民次郎江売却ス、但し八日輸出ノ口ニ付五日迄ニ積出し候約束

一 執行香港出帆（但し神戸江向出帆同処ニ而ベルサ江乗移リ之筈、金貳百円入費引当相渡し、拜司江之手紙ヲ托ス

一 羽太、下ノ関木村江も出帖ス

一 三池小林氏来社ス、松島之事等ヲ知ル

一 横濱有米丈ケは尚五毛ヲ信州江遣スコトニ挨拶ス

一 一月限兜町ニ而若留ニ而百枚アリ、拾三銭

一 一月限同 伊東ニ而百五十枚、いづれも三拾五銭

一月三日

一 孝病氣ニ而引籠従事ス

一 ヲシニツキ号壹万俵、外ニベルサ号之内壹万俵は貳弗五分五厘ニ而売却せしよしニ申越ス

ヲシヤニツク之内

一月四日

一 三陸もの初商三千九百程売却ス

一月五日

一 飯田殿方江至リ飛脚船積之分アンペラ入之義願出ス

一 巴里斯より電信アリ

一 ガラバ来社シ古伊勢米壹万担程入用申出ス、価貳弗三分位の事ニ話シ置ク

一 下ノ関ハロシエロール壹万七千式百五十袋積入之報知フィセルより申越ス、抛而龍動に電信シ而壹頓四十三弗之割合ニ而海上受合相付候様申遣ス

一月五日

一 蛸殻町 三月限り百枚 売附 米又

三十五 五円五拾五銭

六十五 五拾四銭

同 同 同 同

十五 五円五拾五銭

八十五 五拾四銭

一月六日 休日

一月七日

一 フィセル来社ス

一 レメデュース四日市江遣スニ付、免状願大蔵省江出ス

一 信州屋江売付之米受渡之ため、田中長右衛門横濱江出張ス
一 五日ニ巴里より電信アリ、松方大輔殿江可申立事は益田今朝罷出上申ス

一 アルウィンよりフィセル江之為替千八百三拾六弗七リ之手形は、即チ横濱店江回ス

一 小松彰、信州之人兩名(一脱)は十四銀行之人、同道シ来社シ而、生糸其外之談事ヲ為ス

一 アニウエストン号海上受負証書夫々金庫江入レル

一 十二月限惣買付高三千百九拾枚
此利益壹万三千四百五拾四円貳十銭

一月八日 晴

一 兜町 二月限 貳拾枚 売埋 米又

五枚 五円三拾五銭 十枚 五円三拾四銭

五枚 三拾三銭

一同 一月限 百五拾枚 売埋 米又

三十 五円三拾貳銭 九十 五円三拾壹銭

三十 三拾銭

一 蛸殻町 二月限 百貳拾枚 売埋 米又

拾枚 五円四拾壹銭 百十 五円四拾銭

一 兜町 一月限 貳拾枚 売埋 又印

拾五枚 五円三拾壹銭 五 五円三拾銭

一 兜町 一月限 四拾枚 売埋 又印

五円三拾壹錢

一 今日小林秀知氏来社ス、依而共に鉱山局長及工部卿江到レ共、不在ニ而空敷婦社ス

一 ウラント云フ船帆風船壹艘雇入レタリ、英江五十志、歐大州江五拾壹志ニ約定セシニ付、最早積込に差支無之旨申越ス

一 蔵宿三百円取立之事期限已ニ過キタレハ、請求方三銀取立方ニ依頼スル様照会ス

一 岐阜県へ出張之根岸半次郎より申出之節ハ、為替金用立呉候様三銀本店江依頼状差出ス○金壹万円横浜江送ル

一月九日

一 下関江差向タルサンジハル免状取落シタルハ、直チニ今日之便ニ而差送ル、木村迄

一 上海江出状ス

一 メ子口^(方)船三百斤積蒸氣船、神戸・下ノ関より香港江運漕之為メ雇入レタリ、但し半高ハ十八錢、半高ハ拾九錢ニ

而碇泊日數^{三方}ハ十五日、下ノ関よりアンペラ詰メ壹万担積入レ、余は皆日本俵之儘と約定シ、昨日休暇ナレ共飯田殿江

上申し、今日許可ヲ得タリ

一 ラシヤニツク入港の報知アリ

一 レメデユース免状本日収手、即チ十四番江送ル

一 兜町 売埋 二月限 五百石 五円三拾錢 渡辺留二郎

一月九日本

一月十日 晴

一 蛎殻町三月限 貳百枚 売附 米又

七拾枚 五円四拾四錢 百三十 五円四拾三錢

一 兜町 二月限 貳百四拾枚 売埋 東印

壹枚 五円三拾三錢 貳百三拾九 五円三拾貳錢

一 同町 二月限 拾枚 売埋 又印

五円三拾貳錢

一 兜町 一月限 五拾枚 売埋 若留

五円三拾貳錢

一 同 五拾枚 売埋 伊東

三拾枚 五円三拾壹錢 貳拾 五円三拾貳錢

一 兜町一月限 五拾枚 売埋 伊東

五円三拾壹錢五り

一 十二月限未夕請取方不濟分七百五拾石、本日五円五拾錢ニ而売払

一 今日米国飛脚船便ニ而アル^{マゴ}ウ^{マゴ}ン状達ス

一月十一日 晴

一 兜町二月限 拾枚 売埋

五枚 五円三拾壹錢 五枚 五円三十錢

一 同二月限 拾枚 売埋

壹 五円三拾貳錢 九 五円三拾壹錢

一 今午後四時頃横濱信州屋来社、米一件ニ付益田ト相談ス

一 今朝ガラバ氏外一人同伴来社被致候得共、社長留守故遺書

シテ帰ル

一 馬越氏今日来社

一月十二日 晴

一 兜町二月限 拾五枚 売埋 東印

八枚 五円三拾三錢 壹 五円三拾貳錢

六枚 五円三拾壹錢

一 今日三井武之助殿広島丸ニ而帰京被致候

一 昨夜大元方より当社番頭迄深川ニ而馳走アリ

一 龍動派真心得命令状相□シ三の村氏へも為見相決ス

一 益田孝横濱江到ル、増田幸七ニ托シ金貳万両横濱店江送ル

一 東洋銀行江洋四万五千弗毛布絨代ニ仕払フ

一月十三日 休日

一 欧州行書状ヲ認ム

一月十四日 晴

一 兜町二月限 貳拾五枚 売埋 東印

壹 五円三拾四錢 貳十三 五円三拾三錢

壹 五円三拾貳錢

一 同 一月限 五拾枚 売埋 伊東

五円三拾貳錢

一月十五日

養之助、伊達、朝横濱港ヨリ英国江向、仏蘭斯江向、兩國エ

出帆スル

一 養之助殿江命令書相渡ス、外ニ為荷換命令書写、第一号為

荷換拝借証書写、中野梧一より之井上殿江、并山本より之

届物等相托ス

一 香港執行并ヒツトマン、巴里斯支店江も出状ス

一 昨夜乗組ニ付益田、伊東其外出、今朝孝帰館ス

一 生糸三拾九箇今便仏国江送ル、但針道并富岡の提糸なり

一 昨夜英一番江到リ米之談アリ、今日カラハ来社し而尚見本

ヲ定メ、横濱江送り而壹万貳千ヒコルより壹万四千担迄、

勢州上来横濱着\$230ニ而取極メたり、尤壹万貳千より壹

万四千迄ニ而は不都合ニ付、斤数取極候様申送ル

一 東洋銀行ニ尚可相払金員貳万三四千弗アリシヲ以、百分ノ

一之割引ニ而シテイヲフベキン号積并ヘルサ積之当社米江
対シ忒万五千弗之為替受取、夫ヲ以直チニ絨毛布残洋相払
残リは次の勘定ニ預ケル

一都而二月末迄は、香港より之送り金は百分ノ一之割引ニ而、
当処ニ於而被受取候事ニ東洋銀行ト内約ス

一アルウィンよりフィセル渡リ之為替四通不渡リ之分、此度
同人江送り戻ス

一原六郎、須藤等来社ス

一第一国立銀行江レウ石炭勘定残在之、金忒口割之分相払フ
一十三日黒田開拓長官江石炭一条建言書ヲ呈ス

一月十六日

一西村貞陽殿来社ス

一フィセル来リ、香港より尚拾万袋買入度忒弗五分忒リニ而
二月中買入ヲ望ミシ電アリ、即ち出納局江出而其事ヲ申上
ル

一上海江出帖ス、長崎江出状ス、尤石炭一舟丈ケ神戸鉄道局
納入之為積出様申遣ス、忒十八円五十錢之直

一十二月限受渡米古々米、代リ米無之分、五円五十錢ニ而売
戻シ示談ス

一中島江、尚三円九十錢内外ニ而も石の巻売物アレハ、買入
レ而よしと申遣ス

一今便ニは上海江老万円の旧銅貨ヲ送ル
マ

一月十七日

一蛸殻町三月限百枚 売附

三十五 五円六拾四錢 六十五 五円六拾三錢

米又

一月十八日 晴

一福岡県第二課浜口正弘入来ニ付、同県ヨリ下ノ関へ回漕ノ
石炭東京へ差送り方ノ伝言、并同県下ニ而該石炭ハ最上等
ノ品位カ、又ハ別ニ上品アルカ取調報知有之様依頼ス

一勸商局長河瀬秀治并属官一名来訪

一英一番送り伊世米昨十六日より受取初ム

一社員長尾一身持不宜義有之候間、今日放免申付候事
一兵庫ニ而白米英斤渡リニ付不足ヲ生シ、夫カ為積入レ差支
候趣ニ付、出納局江懇願し而電信ヲ乞

一香港より旧銅貨補助銀貨之事ニ付電信アリ

一同断古川市兵衛銅の事申越ス

一月十九日

一兜町三月限 五拾枚 売附

米又

- 式十 五円五拾七銭
- 五 一五拾九銭
- 一 五円六拾貳銭
- 一 五円五拾八銭
- 一 蛸殻町三月限 百枚 売附 米又
- 一 出納局江出頭ス、長崎在米余り上米多分ニ無之候ハ、有丈ヶ少々とも小舟相雇輸出可然旨達アリ ○香港江上米ノ芻米大坂より四千石輸出之達アリ ○代金受金之事、伺置ク
- 一 郷大書記官殿面会、昨夜香港より落手之電信ヲ申談ス
- 一 渋沢ニ相談、直示の通り取計不苦事ニ香港安藤江電信ス
- 一 古川之銅、渋沢より挨拶ニ而一ヶ月之延ハ十九弗式分五リ、二ヶ月ナレハ十九弗半、即金ナレハ十九弗ニ而売却差支無之趣、抛而其趣十四番江中送ル
- 一 巴里より種紙一条ニ付来電アリ、渋沢喜作ニも相通ス
- 一 毛布絨内金願書差出ス
- 一 蔵懸り保坂ニ申付ケシニ付、現品受渡昨夜相済タル趣以書面申出ル
- 一 十四番絨代四千五百円、外ニ税銀立換并麻袋アンペラ之代等仕払馬越江申遣ス
- 一 今日午後五時木村帰着

同廿日休

第一月廿一日

- 一 積信社沼津社長江原素六、副江藤慎平、長倉源作、依田治作、幹事坂三郎、新川五兵衛、株金百株ニ付百円、而し而現今ノ私金ハ四拾株ナリ
- 一 金貳万円横浜支店へ洋銀買入之為送ル馬越直渡
- 一 金壹万円盛岡出張中島新三江第壹銀行電信為換ヲ以送ル、打賃百円ニ付五拾銭也定ハ六十五銭
- 一 兜町三月限 売百枚

東印	五円七十一銭	四拾	六十九銭	三拾
	七十銭	三拾		
- 一 同百枚 売

五円七十銭	六十五	東印
六十九銭	三十五	
- 一 蛸殻町三月限百拾枚 売

五円七十五銭	十
七十四銭	五十
七十三銭	五十
- 一 東京鎮台江馬越罷出候処、約定云々同台都合ニ寄り相止候儀ヲ差除度申入候処、難差除段久保田より申聞候付、明日決答之儀申入引取候事
- 一 午後五時より渋沢、益田同道、支那事件ニ而雉子橋行

第一月廿二日 晴

- *「廿一日巴里第一号書状到着」
- 一 昨夜巴里ヨリ第壹号書状来ル

一難波舟平過ル十七日帰東ニ付来訪相成候事、尤昨年来預ケ金不相替依頼致度との事

第一月廿三日 曇

一東京鎮台条約式ケ年間取結方書面違權無之ニ付、大倉組、吹田組、当社ト三分ニシテ壹ケ年間用品公平ニ仕別、本日鬪引致し則当社之分 梅

天竺襦袢袴下 メリヤス袴下

メリヤス長靴下 短靴下

銅無地鉦 真鍮無地鉦

革手袋 黒四ツ目鉦 黒ホツク

黒美女鉦

一香港行大坂より芻米、上玄米積百五拾万斤積風帆一艘式十錢ニ而雇入レ之事、昨夜十四番より申越ス、但し三分ノ一は散米

一第十四国立銀行ト生糸約条草案小松彰方江為持差送ル

一昨日小林氏来社ス

一香港江卅日便貿易銀壹万円并定位五千円尚送り方国債局江書面ヲ呈ス

一上海江出帆本日之船ニ而大坂より旧銅貨壹万円、從当地壹万円積送り之筈、大坂之分ハ殊ニ寄り間ニ合フまじ、是ニ而都合三万四千円となる

一月廿四日

一羽太紀克今朝長崎より着、橋爪同断歸社ス、同人は横浜詰メ申付ル

一今日大蔵省休暇

一大倉組江長崎乗合米之一条出帖ス

一アルウィンより来電アリ

一旧銅貨貳万円受取証書并香港送り定位銀貨五千円受取願大蔵省江差出ス

一月廿五日

一今日積信社より依頼ヲ受け、米国紐育行製茶八拾五箇勸商局ノ受取ヲ以テ、金七百三拾円荷為換取組候事

一今日ガラバ并ニ横浜拾四番フイシヤル来社致、益田対面ス

一米倉一平来社、益田留守ニ付同人宅へ罷越ス

一大蔵省より輸出米受取り之達アリ、諸出張支店江回ス

一物価新報廿三日発兌のものニ大ナル失錯アリ、抛而手續書

太田原より差出

一フィセル来ル、ワットソン来ル

一洋銀六万四千弗余本日東洋銀行江可払分アリ、依而横浜ニ備へ之分式万弗東洋銀行よりラシニツク積当社米并ベルサ同段之分江対し為替受取、夫ヲ払方ニ用候事、并其不足は

英一番より受取可相私事ニ達、馬越江送ル

一長崎より石炭積ノコロライ子ス着ス

一大倉組より昨日懸合之事は承知之旨申越ス

一メードメリエン并ベルサ東京積之分、インウライス拾四番江送ル

一月廿六日

一本日アルウインヨリ去十二月七日発之書面達ス

一小室より預り金の内四千円戻ス

一フィセルより白米三万担式弗三分ニ而買取度旨申越ス

一月廿七日 休

一月廿八日

一今朝益田御用之為メ出納局江罷越

一ガラバ来社

一米国、香港、英国并仏国江郵便出ス

一フィセルより申越シタル白米大蔵省出納局ニ而承認の沙汰アリ、即チ電信し且ツ返事ヲ取ル

一尚千俵程尾州米ニ而も下渡呉度出納局江出願ス、御聞届アリ

一香港ニ而請取リタル米之代価ハ東京ニ而上納スベキ旨ノ達

アリ、直チニ東洋銀行トフィセル江文通ス

一香港ミユウノル江大蔵卿より被差贈候分香港江送ル、但し

拾四番江頼ム、今便香港江貿易銀壹万円ヲ送り、定位銀貨

ハ間ニ合ハス次便と決ス

一荷為替証書第五号、第七号、第九号之分写巴里支店江送ル

一ベルシロル并アニウエストン号之船積証書各一通ヲ送ル

(龍動江)

一黒絨之事注文アルウイン江申遣ス

一青毛布三百枚拾三片ニ而買入レタル申越シタリ、抛而承知之旨申送ル、但シアルウイント乗合之事

一井上殿より諸方江届状は夫々配達ス

一一昨日東洋銀行江横浜支店より式万弗、英一より之受取金

式万五千弗(米代)、并東洋銀行ヲシヤニック并ベルサ之分

壹万四千弗丈ケ受取、都而絨毛布代之内江東洋銀行江払済

一一昨日倉庫残品検査ヲ為ス、無事

二月一日

一益田孝、羽太紀克今日横浜江至ル

一昨日郷大書記官より話之濠州之羊毛并米之事等問合せ勘定

書ヲ得タリ

一ミ子ルワ積東京之米は香港ニ而式弗四分七リニ売却之事申越ス

一 拾四番江売約条セシ白米三万担受渡之事、拾四番江廻ル船見当ラサル趣ニ而、聊カ猶予ラケフ
一 河岡彦三ニ面会ス

二月二日

一 本日大蔵省江出仕郷殿江濠州之事申談ス、追而勘定書差出ス積リ

一 出納局江も一寸顔出シ、与倉殿ニ面会

一 元島田組家当方持ニ相成居候分、三井組へ売戻取計方として右沽券売通三井地所方齋藤へ相渡候、尤右家ハ他へ売渡候由ニ候へとも、一旦此方ハ四千円ニ而三井組へ売戻し可致事ニ相決候事

二月四日 月曜日

一 第拾七回廿三号積米袋詰計算書売通

一 同断ニ付唐箕式番口米其外売払代同売通

一 若松ヨリ御廻漕米馬関受方計算書売通 県送り状売通添

一 加布里ヨリ同断売通 県送り状五通添

一 右式ヶ所御米受方入費計算書売通

一 右同断船方弁償金同断売通

一 右宮本新右衛門を以出納局へ相納候事

一 第拾貳回、第拾四回香港輸出米代之内洋銀貳万〇五百七拾

一 弗宮本を以出納局へ相納、預リ書取付候事

二月五日 小雪 火曜日

一 清国へ輸出米代之内江洋銀貳万六千五百弗宮本を以出納局ニ相納、受取書取付候事

一 第拾五回欧州輸出ヘルシロル号積馬関預リ米之内、袋詰計算書売通

一 同米袋詰ニ付、唐箕式番口米其外売払計算書売通

一 第拾六回香港輸出サンジバアル号積北国米計算書売通
一 右宮本を以出納局上申致候事

二月六日 晴 水曜日

一 一名古屋丸出帆ニ付羽太紀克婦崎之事

一 養之助殿、伊達一行香港ヨリ出状着

一 新潟丸、高砂丸積荷売揚代価上納英国領事南保殿受取書式
一 通出納局へ上納宮本

一 サンシバル井ヘルシロル積馬関扱経費書式通并ヘルシロ

一 ル号積残り袋経費売通、北国米、筑前米明治十年受払計

一 算式通出納局へ上申宮本

一 狭山会社長繁田武平来訪、赤松則良依頼ヲ以面会候処、同

一 社茶輸出為換相談致度、就而は元金借入方銀行江照会相頼

一 度との儀ニ付抵当付立、尚茶出荷数一ヶ年見積等一見致候

ハ、又々御相談可致儀も可有之哉と申入置候事

一新報局村上放免申付ル

一右代り田中元三郎来社ス

一東洋銀行江三万式千弗并九千六十疋弗八分六リ払済、夫二而差当り皆済

一横浜支店より開成校コロノメートル着ス

一四日市より二艘海外輸出米見本着ス

一羽太紀克今日名古屋丸二而帰崎は、同人伺出之趣指令ス

一アルウィン乗合買入之毛布先着三百枚勘定書来ル、右船積証書并外一箇アルウィンより届物之証書横浜支店江深沢ヲ以送ル

〔蛎殻丁〕

一今日四月限式百枚 新規売入^付レ

百五十枚 五円五十八銭 五十枚 五円五十七銭

〔蛎殻丁〕

一同 四月限 式百枚 売付ケ

百枚 五円五十八銭 百枚 五円五十七銭

〔蛎殻丁〕

一同 三月限 式百枚 買埋メ 米又

五円五十銭

二月七日 晴 木曜日

一兜町四月限 五拾枚 売附 四十枚 五円六十四銭 十枚 六十三銭 米又

一洋銀六万千弗 内

右香港輸出米代之内として拾疋番手形三井銀行ニ而振替、

出納局へ上納 宮本取次

一用事出来ニ付金子弥市可相成速之帰店候様電信セリ

一横浜入庫社米不残東京へ取寄決議、尤輸出米積出船戻リニ付老石ニ付式銭ニ受負可致候事

二月八日 晴 金曜日

一兜町四月限売附 五十枚 三十枚 五円七十一銭 二十枚 七十銭 米又

一熊谷義一、ワットソン、カラバ来訪

一佐々木四郎来店、兵庫新米三四千石申請度由ニ付小栢立五

円七拾銭ト申答候事

一河原徳立仏国行ニ付、陶器為換等相摺^(マ)旁暇乞トシテ罷帰候

事

一米六百四拾三俵^{三陸}横濱残米払下ケ五円式十銭ニ申出候事、出納局へ

二月九日 晴 土曜日

一石巻御届米五拾石ハ上納御差除候而、基本金式万円返納可

致段指令有之事

一三陸米横濱ニ有之分、五円廿銭ニ御払下許可有之事

一 洋銀^(アキマ) 香港輸出米代之内トシテ出納局へ相納候事 宮本

一 長崎古米五千石余ヲ積入、アト馬関ニ古米袋入之分ヲ積切、不足は新米ヲ積入可申、帆前船籠動迄五十志、欧大州へ五十志志六片ニ而雇入可相成ニ付、雇入方与倉殿へ宮本を以相伺候処、即刻相決、速ニ雇入候而可届出との口達有之候事

一 渋沢、ヒツセル、小林、藤田伝三^(マ)来訪之事

一金七千円長崎支店ニ而銀行行出店ニ借越之分入金致し、受取証書留ヲ以差出候事

二月十日 夕小雪 日曜日 休

紀元祭 二月十一日 雪 月曜日 休

一 松方、鮫島殿本日横浜出帆ニ而、武之助殿為見送出浜相成候事

二月十二日 曇 火曜日

一 兜町四月限 売附 五十枚 本 五円七十三銭

一 兜町四月限 売附 五十枚 式番

五円七拾三銭 式十三枚 — 七十式銭 廿七枚

一 麻袋式三万枚上海ニ而買入度、代金拾八銭内外も可有候段

伺書出納局へ差出候事

一 横浜へ洋銀買入之為金壹万円差送ル松本

一 盛岡出張中島送り金一月七日壹万円、二月二日五千円ノ辻、

仙台三井銀行より手形廻ニ付、本行へ入金ス

一 馬関明治十年間大蔵省御預り米諸入費計算悉皆納切候付、差引表一冊本日上申ス

二月十三日 水曜日

一 勢州四日市出張横山彦次郎田子浦丸ニ而本日帰着、両輸出届持帰リ之事

一 東京丸代り九重丸出帆ニ付、拜司江米勘定催促申越ス

一 藤田伝三郎帰坂

一 此便上海之麻袋式三万枚買入、早々長崎へ送り方之儀申越候事 本日出納局許可

二月十四日 晴 木曜日

一 白米三万担売約定手附金七千弗昨日拾四番より受取、本日出納局へ相納候事

一 高千穂丸ヲ以濠州江輸出米見積計算書、本日出納局へ差出候事

一 同米は兵庫預り新米之内袋詰壹万四千石程早々取計置候様致度、尤播州米其他性合宜分相用候様、出張人江達方之儀

与倉殿より書状ヲ以申来候事

*「42,370 三銀 俵」
100,763 第一銀

二月十五日 晴 金曜日

一 石川県伏木港は只今より船用意致、夫より廻船候ハ、多分本月末、来月差入ニ可相成、左スレハ舢下等差障無之旨同県書記官より相答候間、早々雇船致し積入石高届出可申段、与倉殿より書状を以達相成候事

一 亜米一江於兵庫播州米、淡州米之内中品以上五百式十五噸より五百五十噸迄、百斤ニ付式弗三分ニ而買請度申越候付、新米ヲ以売却ニ決答ス

一 昨日大坂拜司江右引当米播淡之内ニ而三千五百石可買入段申越置候事

一 第一銀行ニ而洋銀三万弗、^(和カ)百六拾四匁分換ヲ以買入候事

一 大蔵国債局へ五万弗、時之相場ヲ以買入度願出置事

*「宛町二月限三十式枚売付」

一 宛町二月限三十式枚売附 米又

五円七十三銭 十三枚 — 七拾式銭 十四枚
— 七十一銭 四枚 — 七十銭 一枚

一 横浜五十九番ペーウエース来店、本日大隈殿宅へ参り窓掛寸法等差取候間、立合等追而可申進段申置引取候事近衛局

八本日差障之由

一 石炭一条ニ付渋沢同道、益田工部卿江至ル

二月十六日 土曜日

一 陸軍第二課より紺第一号、式号、緋絨甲乙六号、紺絨直段可申出様談じニ付、即チ龍動江電信ス

一 アルウィンより昨夜二通の為替手形来ル(フェイスル江)

一 右之事ニ付□□江問合せとし而、鍵富義横浜江為サシム

一 昨夜ガサル号式千噸積五十志、五十二志半ニ而雇入香港より申越ス、但長崎ト下関積ニ而欧州行ナリ

一 香港上海銀行ニ、香港執行弘道より三万七千五百弗電信為替参着之報知アリ、抛而今日受取方横浜支店江申送ル

一 煙草見本エリエンより送り来ル、抛而室町支店ニ命而仏支店へ送ルコトニ取計

一 電信局電信料一月五日之分ニ付間違アリ、取調中
一 宛町二月限八枚売附 米又

四枚 五円七十銭 四枚 五円六十九銭

一 麻袋横浜預り五拾八箇、浅草受取式拾九箇、濠州輸出用として兵庫拜司へ、来ル十八日出帆熊本丸ニ而送り方之分三菱へ渡ス

一 同尙箇浅草御蔵ニ而受取、舢下より瀬取船江積入候節沈没ニ付、償金三菱江引合方舢下方より打合候事

一フィセル方江アルウィン為替手形差遣シタル処、一兩日猶予頼み越ス

二月十七日 日曜日 休日

一田中長右衛門江出帖ス、小麦買附着手ス

二月十八日 雨月

一工部省官員末松某唐津江出張之義ニ付罷越面談ス

一カイノミシユル汽船加州伏木港江回シ、従夫香港江一航海に雇入レタリ、船賃三拾錢、水夫料三百弗、碇泊日数廿五日ニし而三円一日より始メ候筈、もし其港ニ於而米之積込ミ難出来時は、能登以北は除キ、其他はいつれの港ニ而も積入可申事、抛而明日同船ニ而横山ヲ遣ス筈、尤中西を一時大坂江出張せしめ、従大坂竹泉歟、竹内出張為致候筈なり、レメデユース并船之免状願書ヲ出ス

一今日五万弗従大蔵省買入代り金上納候而洋銀ヲ受取ル、相場六十四匁分五り

一深井多七ヲ以洋式万弗、馬越ヲ以洋壹万三千弗并金壹万円横濱江遣し而、洋銀ハ東洋銀行江払入ヲ命ス、但し三銀の壹万弗手形第二銀之分ト交換ナサシム

一第四銀行辻市五郎来社ス

一静川屋番頭ト信州屋民次郎来社し鮑百六俵買収ス、但し価

ハ売買課に留メ置ク、但し取引は廿五日頃下物アレハ勿除キ可申筈

一香港江英郵船ヲ以鮑、木茸、岩茸見本ヲ送ル

一大倉喜八郎同道(大丸)築氏之宅江至ル

一龍動送り前橋生系之為替三千元受取ル

一馬越来京ス

一香港江電信し而寒天之事申送ル

二月十九日 火

一新潟為換取組為指金五千元之辻并約定相添、第四銀行江為持候事

一千早丸当分之内願通聞届相成候指令、本日下渡相成候事

二月廿日 水

一西京丸出帆ニ付、岩鼻敏長崎詰差除キ大坂詰申付、代リトシテ伊藤捨次郎手代席江雇入、月給七円遣候及指令、直ニ出発ス

一免状式通

右出納局より下渡相成候付、直ニ横濱へ持參、郵送ス

一陸軍より絨代、毛布代之内金六万四千九百七拾円四十三錢

三右御下渡相成候事

一 川岡彦三第巻等運転手免状試給済ニ付、下渡相成候事

二月廿一日 木

一金子弥市若津ヨリ帰着

一 盛岡出張中島新三為替取組案内之内、七百円、丁唸^(カ)四百円
伊勢半之分手形引変渡ス

二月廿二日 金

一 熊谷義一為紅茶製造雇入、月給廿円支給之指令書相渡候事

一 兜町四月限百枚 買埋 東

式十枚 五円五十四銭 七十九枚 一 五十五銭
一枚 五十六銭

一同三月限十枚 買埋 東 五円五十四銭

一同三月限拾枚 買埋 東 五枚 一 五十三銭
五枚 一 五十四銭

一 兵庫御預り新米之内壹万五千石ワツトソン江壳渡ニ付、中
品之処可払渡段指令出納局より下渡相成、直ニ郵便電信セ
リ

一 馬関三井銀行預り壹年米之内千石丈入札試可致段、出納飯
田殿より宮本へ口達ニ付、明後日郵便彼地着候ハ、見合候
而、早速可取計段電信セリ

二月廿三日

一 兜町二月限七枚 三枚 五円六十六銭
四枚 六十五銭 売付

一同 壹枚 六十五銭 同断

一 鉾山局江検測人并外国人雇入レ願書両通出ス

一 出納局并勸農局孝出仕ス

ワツトソン米之事(五円三十銭中米兵庫渡し)、兵庫上納米、
大坂芻米之事、勸農局御聞之事

一 フィセル来社ス、ロルン号四日市ニ而式千五百石、百斤式
十銭、兵庫ニ而大坂残り十六銭ニ而積ムナラ雇入可致卜決
答ス、コミット号五十志、五十三志ニ而欧州行申越ス

二月廿四日 休日

一 三野村利右衛門一年回ニ付案内有之事

二月廿五日 月

一 益田横浜行、本日鉾山局より風帆千早号引渡ニ付小林属も
出張相成候事

一 金貳万円横浜へ送ル 松本持帰候事
^(カ)

* 「22,548,463 三」

「26,280 一」

二月廿六日 晴 火曜日

一 蛸殻町四月限六拾枚 買埋 米又

十枚 五円五拾九銭 四十枚 五円六拾銭

十枚 五円六拾零銭

一同 四月限四拾枚 買埋 米又

五円五拾九銭

一 兜町四月限六拾七枚 買埋 米又

八枚 五円五拾九銭 五拾九枚 五円六拾銭

一同 四月限三拾三枚 買埋 米又

十壹枚 五円五拾九銭 十八枚 五円六拾銭

四枚 —— 六拾零銭

一 盛岡齋藤より送候葉苺見本式通り之内、壹通り同人名代木

下平四郎へ返却ス

*〔麻袋達シ〕

一 麻袋拾万枚買入方出納局達有之事

二月廿七日 水

一 蛸殻町四月限三百枚 買埋

百廿枚 五円六拾四銭 百八拾枚 —— 六十五銭

*〔皆済〕

一 羊四頭横浜より取寄、小網丁江渡ス

一 浅草御蔵子年米品劣之分壹万石丈香港輸出決定ニ付、船雇

方可致段、飯田殿より達有之事

一 東京ニ而五千石子年中米、兵庫ニ而新中以下之米壹万石、

平均為三十□ニ而当社江御払下願濟之事与倉殿より達し

之、尤□^(辨カ)回シ共槽ニ而ワットソン同様との事ニ約定ス

一 ホドソン号四日市ニ而六拾万斤、大坂ニ而八拾万斤積入、

香港江積送り運賃拾五銭三分ノ一

一 レミエ号厦門江小麦積十五銭ニ而雇入レタリ

〔裏表紙〕
〔元方〕